

緒言

余將に臺灣及清國巡遊の途に上らんとする時恰も盛暑に際す知友交々余に對し忠告して曰く君が新領土及隣邦に遊ぶ其舉邦家の爲めに賀すべし唯炎熱の候に方りて南方瘴癘の異域に向ふ時未だ宜しきを得たりと云ふ可らず請ふ秋冷を待て發せよと余謝して曰く諸君の厚情深く想ひざるにあらず然れども余は是れ製茶貿易を以て本業とす茶業者の不幸にして世人が暑を避て清涼の地に遊ぶ時を以て最も勤勞すべき季節となす臺灣に於ける茶業の實況を視察せんと欲せば宜しく夏期を

撰らざるべからず況んや暑中の余が公務に於て幾分か  
閑を得る時なるおや此期を利用して海外漫遊を企つ是  
れ豈に余の本意として寧ろ時の宜しきを得たるものよ  
あらずやと

則ち七月三十一日を以て横濱を發し先づ臺灣に渡行し  
更し南の方香港廣東に遊び轉じて支那中央殷富の地た  
る楊子江沿岸を歴遊して九月二十四日歸朝す其間僅々  
五十有餘日所謂南船北馬只觀光を専らとす固より調査  
の結果として特に記すべきものなし殊に輓近本邦人士  
の臺灣及清國に遊ぶもの尠なからず各専門的視察ある

に方り漫然皮相の觀察を下す却て世人を謬るの恐なし  
とせず

今茲に余が後日の記憶に備る處の紀行を上梓して之を  
知友に頒つ所以のものに要するに此行に就て配慮せら  
れたる辱知諸君の厚意に酬ゆるに過ぎずと雖も亦一片  
微志の存する點なきにあらず幸に一讀の勞を吝む勿れ  
と云爾

明治三十一年十二月

南湖

大谷嘉兵衛識

# 臺灣清紀行

大谷嘉兵衛誌

明治三十一年七月卅一日 發程 (晴天酷暑)

此日朝來旅裝を整へ家人に後事を傳へ午後一時二十分横濱發急  
行列車に搭じ臺灣並に清國巡遊の途に上る但神戸に於て聊か  
所用を辨じ八月三日同地解纜威海丸に便乗して先づ渡臺せん爲  
め本日を下して横濱を出發したるなり此行臺灣貿易株式會社支  
配人和田正脩茶業組合事務所主任和仁幸之進を伴ふ時に及んで  
停車場に到れ我横濱及東京の紳士知友を始め親戚其他我行を  
送らんとて來集の人々場内に充つ正に發車せんとするに臨んで  
ラットホームに集れる此等の諸氏余が爲めに萬歳を唱て以て首

途を祝せらる厚意謝するに餘あり諸會社員親戚等國府津迄送り來る車中志賀重昂氏と室を同ふす沼津静岡藤枝等の各驛を通過するや其地茶業家諸氏車窓に來り或は行厨を齎し或は茶菓を寄て懇に送別の意を表せらる芳情感謝すべし此夜神戸に向て直行す

八月一日 神戸滞在 (晴天甚暑)

午前九時三十分神戸に着す池田貫兵衛氏其他諸氏停車場に出迎らる諏訪山西常磐に投宿す此夜山本龜太郎池田貫兵衛山本和助駒田彦之丞永田平四郎西口清助其他諸氏の爲めに兵庫常磐花壇に饗應を受け夜十一時旅館に歸る

八月二日 神戸滞在 (晴天暑氣強し)

午前舊友池田氏に誘引せられて氏が須摩の別墅に赴く和田社用

を了して後れ到る更に轉じて保養院に饗を享け夜に入りて旅館西常磐に眠る此日横濱より送り來れる伊藤善吉坂東し後發したる和仁來り會す

八月三日 神戸乗船 (晴天暑氣)

午前山本池田永田駒田黒澤其他數十氏來訪十一時此等の諸氏を送られて郵船會社棧橋より威海丸に乗込む正午十二時纜を解く船港を出で漸く速力を加るや海風徐ろに甲板を吹て再昨來の苦熱を洗ふ須摩明石の翠綠又掬するに禁へたり此夜十六夜の月明かにして所謂瀬戸内の美景たる幾多の大島小嶼を輝し船金鱗を起して頻りに駛走す快言ふべからず船中内藤陸軍少將三井物産臺北支店長田村氏等あり共に甲板に出で此清夜を賞し夜十一時頃寢室に入る

八月四日 門司寄港 (晴天日中温度八十七度)

四

朝六時起床して甲板に登れば船既に馬關海峽に在り八時門司に投錨す碇泊八時間なりと云ふ郵船會社馬關支店支配人甲藤求己氏我一行の爲めに小汽船を備て上陸を勸む則ち氏の案内によりて大吉樓に到り浴を取り午餐を喫し市中を瞥見して午後二時本船に返る内藤少將ハ大村旅團長に赴任の途次なる由にて門司に上陸せらる三時三十分船進行を始む夜筑紫の沿岸に漁火の群を爲して搖曳するを看る

八月五日 航海中 (曇天暑氣海上不穩の模様)

黎明船動搖して睡眠を破る頭を擡て海上を望めば波濤洶湧既に玄海灘を過て渺茫たる支那海にあり午後より夜に入りて益船体の激動を覺ふ終日「カビン」を出でず

八月六日 航海中 (暴風雨温八十四五度)

前日來陰惡なる海上ハ一變して颶風を起し再變して強雨其猛威を助く怒濤澎湃流石に三千餘噸の威海丸も落葉の如く掀翻せられ器物の顛墜破壊する音ハ狂瀾の船體を噬で咆哮するの聲と反響し夜に入りて船の激動する事益甚しく余の室内に積置きたるビール壘破裂して一層船暈を激す余元來航海に慣れず今や偶ま此大風に遭遇す終日終夜只昏臥懊惱を極む

八月七日 航海中 (暴風雨温八十度)

昨夜來の風力更に衰ふ色なきのみならず天候猶隱險にして本船の所在を測定すること能はず時々進行を中止して風威を避くるものゝ如し午後四時頃船長の推測によれば基隆を去る九十海里なりと聞く此日も又終日苦惱の中に暮れ夜に入りてハ激波甲板

五

を打の響に非れば船員の叱咤風雨と戦ふ聲を聞く而已

八月八日 臺灣着 (風雨温八十二三度)

拂曉に至り風力稍衰へ船漸く速力を加ふ午前十時頃に至りて潮流淡色を呈し風雨又次第に收る乃ち装を理し甲板に上れば遙に臺灣の峯巒を望む衆皆蘇生の感をなす正午十二時頃基隆港口に投錨す航海時日遅ると事凡一晝夜なり臺灣貿易會社臺北支社員大島波江野の兩人輕舸を飛して本船に來り迎ふ郵船會社出張所主任近藤勝之助氏我一行の爲に小汽船を出して迎へらる則ち之に搭ちて行ふ少許港内水淺くして進まず更に輕舸に乗替へ雨を衝て上陸す願れば港口の東岸に打上げられたる一汽船あり大坂商船會社の江の島丸なりと云ふ陸上に至れば家屋の破壊するもの屋瓦の傾くもの數ふるに勝へたり就中基隆停車場の如き全滅

して痕跡を留めず以て風雨の如何に暴威を陸上に逞ふせしかを知るに足る茲に於てか今更ら威海丸の安着を喜び併て船長酒井氏の勞を想はずんばあらず今朝より基隆臺北間の汽車漸く通ずるを得たりと即ち三時發の列車に搭ち沿道の慘狀を目撃しつゝ雨中臺北城外の停車場に着す支社員松本龜次郎等出迎ふ午後五時城内府前街朝陽號に投宿す

同號へ東京風の家作りにして純粹の内地旅館なり而して此邊の稍被害の輕き場所なりと云ふに拘らず床上壹尺以上に浸水したるの跡ありて樓下の未だ疊を敷くを能はず則ち一行樓上の客室に入る此夜臺北茶商公會長郭春秧氏同公會顧問大庭永成事務員堤林數衛の兩氏を伴て來訪し篤く遠來の勞を慰め安着を祝して去る

八月九日 臺北滞在 (晴天温八十九度)

八

午前十時郭春秧を始め茶商公會幹事湯玉衡、劉省齋、陳瑞量、王青雲、林性賢、黃怡祥、黃和題、詹明德等の諸氏轎子を列て來り訪ふ暫く臺灣茶將來の貿易上に付て對談す彼等余か外出の要あるを察し再會を約して返り去れり

十一時裝を更め駕を命じ先づ兒玉臺灣總督を官邸に訪ふ直に引見せられ遠來の勞を慰問せらる余の總督の健康を賀し不取敢入臺の御挨拶に參邸したる旨を述べ再謁を約して邸を辭し夫より後藤民政局長官を訪ひ歡話少許辭して旅館に返る支社員等來りて此地の近況を告げ又水害の慘狀を説く支社の淡水河畔に在るを以て浸水數尺に及びたりと雖も幸に被害輕しと又曰新竹地方に至る鍊道は全く破壊して數ヶ月を経されば開通せざるべしと

依て止を得ず當初豫期したる該地方巡視の事を思ひ止り暫く臺北に淹留する事に決す

八月十日 臺北滞在 (晴天暑九十一度)

朝七時半頃後藤民政局長官騎馬に鞭て余が旅館に來り訪へる長官の快談により稍臺地の情況を窺ふを得たり八時半頃再會を告て去らる

夫より支社員を案内とし先づ大稻埕に赴き我臺灣貿易會社支社を一覽し次で「シャードン、マデソン」商會の製茶再製場及倉庫を一見し更に隆興洋行に至り館主「ブライヤー」氏に面會す氏我一行の爲めに三鞭酒を酌で歡待す拜見場に至りて烏龍茶を見る一担貳百圓百五拾圓百圓等の最上優等品を始め數十種を排列せり則ち品質の優劣を評し近況を糺し好意を謝して館を出づ此邊の水害

九

殊に酷しく一家十人枕を并て悉く壓死したる跡を看る隆興洋行  
又茶數百箱を濡損したりと云ふ千秋街建昌街六館街等通過の街  
衢皆荒涼たり聞く臺北全市の死傷幾百家屋の破壊したるもの幾  
百千如此慘狀の土人の數十年來未だ曾て覺へざる處なりと余今  
や臺北より來りて偶々此災後の實況を視る豈に一片同情の涙をか  
らざらむや則ち此日村上本縣知事に宛てて金貳百圓を寄せ以て  
管内罹災人民救恤費中に加へられん事を乞ふ  
午後三時茶商公會の招待により余が一行轎子を列て大稻埕太平  
横街の公會に行く道路狹隘災後の汚水溢れて轎丁の脚を没し異  
臭鼻を衝く不快言ふべからず公會に到るや郭會長の幹事諸氏と  
共に出でて歓迎す休憩の後公會の需に依り門前に於て一同寫眞  
を取る土民群集し來りて撮影を妨く五月蠅こと限りなし了て鄭

十

重なる支那料理の饗宴を開く郭氏曰災後他に憚る所あり妓を招  
て酒間の興を添るゝ能へざるを謝すと總督府技師高橋昌臺北縣  
殖産課長横山壯次郎辯護士服部甲子造臺灣日々新聞記者木下新  
三郎等の諸氏と卓を共にす聞く公會の家屋は曾て高等法院たり  
しもの此樓上の彼の高野孟矩氏憲法擁護を主張して再び來り院  
長の椅子に就き大に警吏と争ふたる處なりと夜九時轎子七八を  
連て坂途に就く轎丁手は一種の松明を振りて進む頗る奇異の觀  
あり

八月十一日 臺北滞在 (晴天暑強)

朝高橋總督府技師來訪来る三十三年巴里博覽會へ臺灣茶出品の  
件に付要談を爲す又大倉組支店支配人賀田金三郎氏訪問せらる  
兩氏去るの後日本銀行支店に至り副支配人久保田勝美氏に面晤



す氏臺灣理財上の大勢を論じて臺灣銀行設立の急務に説き及ぶ頗る肯綮に當るものあり執務を妨んことを恐れ再會を期して正午過旅館に呷る總督府事務官祝辰己郵船會社基隆出張所主任近藤勝之助の兩氏來訪す

午後千秋街の獨逸商公泰洋行に赴き館主「オーリー」氏を訪ひ火災保險に關する協議を試み次で我支社より行き製茶再製場の構造其他の便否を巡視し指揮を加て呷る總督府殖産課技手藤江勝太郎氏余の旅館に訪ひ來りて待つあり但氏の我爲めに産茶地を案内し且對岸支那に至る迄余の一行に加るべき旨官命を享けたるに依り其打合の爲め來訪したるをかり總督府の厚意深く謝すべし此夜七時後藤民政局長官の官邸に於て晚餐の饗を受く歡話時を移して呷館す

八月十二日 冷水坑庄に製茶を視る (晴天暑氣強烈)

午前七時一行轎子に乗て旅館を發し冷水坑の庄に向ふ冷水坑の所謂擺接部落の産茶地にして良茶の産出を以て名ある所なり先づ西門を出で、ミナ阿河を涉り水田緑野の間を行くこと凡二里枋橋を経て更に路傍相思樹を植たる村道を進むと一里許にして午前十一時頃冷水坑に達し土豪遊其源氏方に到る遊氏父子出で、我一行を歡接す則ち茶を啜り休憩するを暫時若主人の東道により氏の茶園を看る園は此家を隔るる數丁丘陵起伏蕃地に墾する處にあり地質沙岩赤色を帶たる所謂傾斜地の良園なり然れども内地良園の如く茶樹繁茂するをなく其高さも一尺六七寸乃至二尺五六寸を出でず一見疲瘠の觀ありと雖も是れ頗る理由の存する點なきにあらず何となれば烏龍茶の肥料を施すとき、香氣

に害ありとなし除草を力むるの外一切肥料を給せず又十五六年を経たる茶樹の其勢力を失ふと云ふ蓋し此園の如きも十年を出ざる若樹なるよればなるべし時に摘婦の園中に在り竹籠を腰にし我一行の爲めに摘採の實況を看せしむ其摘み採の体度及方法の我内地と毫も異なることなし時正に日中にして炎熱燬くが如く流汗淋漓背を濡す則ち錢を與へ遊氏の家に販り午餐の饗を受く藤江技手後れて來り會す

午後製茶場を看る製茶場の製造揀茶の二大部に分つ農家の製造場としての規模大にして器具も又整頓せり主人先導して我一行の爲めに製造の實況を示す即ち順序として

日乾萎凋より始む先づ生葉若干を麻布哇(竹筵)に散布し日光に曝すこと數分(通常二三十分間を晒すなれども余が一行時間には餘裕なきを以て普通要する手間を省く以下倣之)茶工の五分毎

に一回づと手を以て過不及かく茶葉を攪き交せ以て水分を發散せしめ少しく香氣を起したる頃室内萎凋に移す

茲に於て此生葉を笥(カ)丸(丸)箕(箕)に盛り茶葉架(茶葉架)我養蠶棚の如き棚に置き七八分間毎に二回攪き廻し摩擦醱酵を誘ふこと一時間程通常二時間にして次に籠(カ)胡(胡)大丸箕の類に茶葉四五貫目を投じ茶工三四人器の周邊を廻り乍ら數分間宛攪廻すと多時(凡二時間を要すと云ふ)茶葉の周邊紅褐色を呈し少しく佳香を放つよ至り第一釜熬に移る

第一釜熬の茶葉三四百匁を茶釜(日本茶再製鍋の如きもの)に投じ武火を以て之を熬ると三四分熬手の斷へず指頭を以て茶葉を翻轉し茶葉の水漸く發散して柔軟とあるを候ひ隣側の釜に移し熬ると又一二分にして小笥(カ)籠(籠)に取り上げ搓揉すること二三分更に手捌を加て第二次の釜熬を行ふ

第二次の釜熬カマアウの較く温火を用て前同様に釜熬をなすこと三四分の後足揉アシロに附す足揉の釜より出したる茶を竹製の筥ハコ(禿篇カウペンと云ふ)の上に投じ禿棍カウコンと稱する横に懸たる丸棒に兩手を支へ体を斜にして足を自在に働かし揉むと凡七八分間茶葉は泡液を生じて粘着し塊形となるに及んで止め更に手揉をなして其團結を解き而して後乾燥に移す

乾燥に三段あり始の焙爐に炭料七百匁程を容れて強火となし煙臭去るの後焙籠カウカウ圈カウカウ(内地再製川籃に同じ)を爐上に置き茶葉七八十匁を此に入れて乾燥すること一二分間燥手の絶へず茶葉を反覆して火力に過不及なからしむ

第二次の焙爐を取換るのみにして初と異なる點なし

第三次の全く仕揚の乾燥にして爐中の炭火に灰を被ひ極て文火

となし焙籠に茶葉八百匁を投じて二時間以上三時間を乾す燥手の十分毎に攪廻して火度を均一ならしむ

以上製造時間の春季にありての全体を通じて七時五十分を費し夏季の五時五十分間にて足れりと余の一通り此等の製造(烏龍茶の農家製造則ち所謂元茶の製法なり再製の別に茶商の行ふ處に屬す)順序を一見し次に揀茶場カウカウを看る

揀茶との茶葉を精撰するの謂ひにして通例臺北茶商の爲す處かり遊氏茶商を兼ねるを以て此揀茶場の設あり場内廣くして幾十百人の婦女を入れ就業せしめ在り今其實況を視るに一箱カウカウに付茶葉二三貫匁を盛り揀手三四人をして茶頭を拾ひ取らしむること内地茶撰りと格別異なるをなし其揀り上の量は各自の巧拙により差異ありと雖も一人三四斤の割にして一斤に對する賃銀四五錢なりと云ふ揀手の婦女の職にして多くの妙齡の女子なり

且彼等は頭髮を理め紅粉を粧ひ清潔の衣服を纏ふのみならず時々更衣して互に誇るの風習あるが故に極て貧賤のものに揀手たるを得ずと是れ又一奇觀と謂ふ可し

一行懇に遊父子の厚意を謝し別を告て坂途に就く枋橋に至り有名なる豪族林本源林維源氏の邸宅に立寄り一見を望む後見人林克成氏款諾し家僕をして邸内を案内せしむ表門より中庭ニ臻る所々に墻壁を設け區畫を施し又廻廊を造ること長くして屈曲す屋宇幾十棟結構宏壯ならざるに非らずと雖も只惜むらくは幾十百人を一堂に會するに足る廣堂なきと修繕及掃除の行届かざるとにあり蓋し是れ支那人の風習なるか後庭に至れば數寄を凝らしたる樓閣又幾棟あり就中望月樓と觀劇臺との最も華麗を極む繞すに蓮池を以てし其外郭を二層の廻廊となす廊壁詩文を彫刻

す亦見るに足る庭中に奇嶮突兀たる人造崑の洞門あり築山あり徑路あり名木珍石を其間に配置す庭中の趣向濃厚に過ぎ雅致を缺くと雖ども又一顧の値ひなしとせず此邸築造に十數年を費し巨萬の財を投じたりと云ふも亦宜べなる哉主人目下厦門の別墅に住して爰にあらす令息兄弟年齒十五六と十二三の兩人あり即ち一禮を述て邸を出で夕六時過臺北の旅館に返る

此日轎窓より瞥見したる一二を記さんに水田の目下第二作を植付たる後にして除草周到稻の發育も又可なり田畔に農夫二人相擁して一種簡便なる揚水器を踏つと一段高き田面に灌漑の水を送るあり村童の巧に水牛を役して耕耘をなすあり更に奇なる農家の副業として河中に幾群の家鴨を放飼し舟を流して見張するの狀杯の皆内地に在て絶て見ざる處の光景なり要するに

農業の規模の小農的にして精耕するに内地と格別異なることなく肥料の概して施さずと雖ども地味肥沃にして二作を收穫するに足り農家又生計に餘裕あるものゝ如く村落の体裁の市街よりも却て清潔にして發達したるの趣を見る茲に至りて余の百聞一見に若かさるの感ありき

八月十三日 臺北滞在 (晴天暑氣)

午前三井物産會社支店に田村實氏を次で李春生氏を大稻埕の邸に訪ふ夫より村上臺北縣知事を縣廳に訪問す氏の水害視察中に未だ販廳せずと依て刺を通じて販る

午後六時兒玉總督の招により和田を伴て參邸し晚饌の饗を享く賀田金三郎久保田勝美山下秀實三戸徳助等の諸氏と卓を共にす横澤總督秘書官幹旋の勞を執らる歎話時の移るを知らず夜十一

時頃總督の厚意を謝して邸を辭す

九月十四日 基隆行 (晴天夕驟雨あり)

此日基隆港の現況を一見せんと欲し午前九時四十分臺北發車に搭じて同港に到り先づ郵船會社出張所を訪ひ近藤主任及河村某氏に面會し質すに基隆港の狀況を以てす氏等曰日本港修築の急務なるをい何人も認むる處總督府に於ても着々計畫せらるる所ありと聞く然るに其設計の頗る秘密に付せらるるを以て我々直接の關係を有する海運業者と雖ども更に其摸様の一端をも窺ひ知る能はず從て社用の倉庫荷揚場杯施設の必要迫れるものありと雖ども奈何せん築港の方針明かならざる以上の安心して新設に着手するを得ず去りて見らるる如く港内に一定の荷揚場なく船客乗降の棧橋たに其設なき今日の有様にての獨り當業者

のみならず官民一般の不便困難を知るべきのみ旁總督府に於ても差支なき限りの速に築港の設計を公表せられ以て適従する處を知らしめられんことを希望し居る次第なり殊に共同物揚場棧橋及倉庫の如きの第一着に設けざれば如何ともすべからず依て是等の將來築港成るの曉に至りても漫りに變更を命ぜらるゝが如き恐れなき位置を指定し速に其設立を許可せらるゝと肝要あり云々時正に十二時頃なれば事務を妨んことを恐れ辭して出張所を去り隨員和仁岩谷の兩人を伴て割烹店日本亭に入り午餐を喫す此家新築の内地作にして客室清潔樓上港内を臨み風光佳なり休憩の後一行小舟を備ひ港内を巡視す則ち小基隆より乗船して二砂灣、クルペー濱等東岸に沿て進み港口の基隆島附近に至り是より西岸に舟を轉じ仙洞の邊を経て畧々港内を巡り遂に停車場附

近に上陸し午後三時同地發の列車に搭じて歸途に就く余や今親しく往て基隆港を一見し又人に就て狀況を聞く豈に一言なかるべけんや

夫れ基隆の港灣たる臺灣北部唯一の良港にして内地臺灣間交通の咽喉なるのみならず南の方近く臺北府を控へ北に則ち一葦帶水を隔てと清國と相對す之れを商港として將來内外の船舶を輻湊せしむるに足るべく之を軍港として優に東亞の大勢を制するに足るべき要鎮たり基隆天然の形勢夫れ此の如しと雖も只憾むらくは港口濶くして水深き所の岩礁の起伏するあり港内の兩岸漸次相迫窄して港奥に入るに從て愈狹隘を極む殊に冬期外洋より吹き來る東北風の波濤を湧起して船舶常に碇泊の困難を告ぐ是れ本港に於ける一大缺點なり更に騷て港内と陸上との

關係を看るに港口大船を浮るに足る處の兩岸の地勢山麓にして斷崖の峻嶮なるあり市街に近き所の水淺くして船を遣るに便ならず是れ第一着に灣内を浚渫せざるべからざる所以にして第二の欠點なりとす然りと雖も此二大缺點を補ふに人工を加へ船舶の出入を容易ならしめ碇泊を安全ならしむると同時に港灣に必要なる棧橋倉庫等の諸機關を備へしむるに於ては本港將來の發達又測るべからざるものあらん蓋し臺灣經營上基隆築港の最大急務なるに勿論にして總督府の夙に苦慮畫策せらるる所今や設計の方針畧は成るありと聞く余の一日も早く築港の事業に着手せらるるの運に至らんことを希望し併て國家の國家的事業として又速に之れを成功せしめずんばあるべからず

此夕六時より李春生氏の招待に依り余の一行及支社員等氏が邸

に赴き洋食の饗を受く氏の令室及一家族出でて挨拶す蓋し土地の俗習によれば婦人の一切客に接せざること猶支那本國の如しと李氏率先本邦に皈化し又歐米文明の風俗に爛ふ故に此異例を以て余に對したるものか夜九時過辭して府前街の旅館に皈る

八月十五日 臺北滞在 (晴天甚暑)

午前九時旅宿を出でて兒玉總督を始め後藤民政局長官其他を歴訪し不日臺北を去る旨を告て暇乞を爲し夫より貿易會社々宅地を見分して皈る

此日李春生、田村實、三戸徳助、柳本殖産課長、藤江技手、郭春秧代堤林の諸氏來訪す

八月十六日 北投行 (晴天南風少く強し)

早朝臺灣銀行の件に關し大隈總理大臣及添田大藏次官宛意見書

を郵送す

余が入臺の爲め兼て淹留せし神戸池田商會員増田祐三氏本日販途に就く

此日少しく閑を得たり依て北投温泉に一浴を試んと欲し和仁岩谷の兩人を携へ午前九時轎子に乗て旅館を發す和田ハ社用の爲め支社に在て執務す途を芝蘭に取り十一時過北投の庄に達し直に温泉宿松濤園方に投す

北投庄ハ臺北を西に距る二里許大屯山の東麓岡陵起伏の間に介在する高地にして硫黃の産出地たり又此邊ハ鳳梨パイナップルの栽培を以て名あり岡陵の間に流るゝ一帯の溪水ハ則ち硫黃質の温泉にして皮膚病に最も効驗あり風土又佳良かるを以て四時浴客を絶たず云ふ然れども温泉宿に浴室の設けあるに非れば浴客ハ彼の溪

流に赴て浴を取ざるを得ず故に雨中若くハ夜間ハ勿論日中ハ入浴に便ならず余が一行休憩の上先づ一浴を試るに温度体に適せりと雖ども硫氣皮膚を刺撃して永く浴すべからず又此地山間の僻陬にして蟻多く動もすれば食物及臥床を襲ふのみならず飲食頗る不自由なり假令臺北に比して幾分か空氣の清涼なるありと雖ども養病の切かるものかくんハ滞在するに堪へず僅に此夜一泊せりと雖ども遂に安眠すること能ハざりき

八月十七日 臺北滞在 (晴天温九十二度)

午前七時北投を發して販途に就く途中土人の鳳梨を荷擔して臺北の市場に向ふもの絡繹たり九時半頃臺北の旅館に販着す午後公泰洋行エヌ、エル、オーリ、怡和洋行シー、エ、ナ、ベスト興隆洋行エ、シー、ブライヤ、等の諸氏我旅館に來訪す



八月十八日 臺北滞在 (晴天温九十二度夕驟雨あり)

此日午後六時支社員等余が爲めに支那料理の晚餐會を開く席上社員一同に對して訓示する處あり又雇土人等に對してハ特に茶の製造及取扱上清潔を守らざるべからざる所以を説て訓戒を與へ夜十時頃飯館す

本日「ドグラス」汽船會社の海門號淡水に入港し來る二十日出帆すと依て此船にて先づ廈門に渡行することに決す

八月十九日 臺北滞在 (晴天温九十一度)

午前九時一行支社に赴き社員等と共に紀念の爲め撮影す

夫より立見少將柳本殖産課長祝事務官高橋技師「ブライヤー」久保田勝美李春生其他諸氏を歴訪して暇乞す

八月二十日 臺北出發 (晴天甚暑)

早起行李を整理し午前八時旅宿朝陽號を引拂て大稻埕の支社に到る横澤總督秘書官柳本部長久保田日本銀行支店副支配人茶商公會幹事一同其他數十氏支社に來り見送らる九時頃支社より備る處の小汽船大關丸に搭を將に淡水河岸を發せんとするや茶商公會諸氏余が爲めに爆竹を放ち首途を祝せらる好意多謝此行總督府技手藤江勝太郎氏支社員松本龜次郎等加り一行總て五名となる蓋し藤江技手の總督府の命を承け廈門及香港まで余に伴ふものにして松本の余廈門市場の視察を命じたるに因る支社副支配人大島次郎其他數名淡水迄送り來る

淡水河ハ海潮の溯ると凡十五六里臺北より二里の上游海山迄至ると云ふ河流甚急ならず河幅又廣くして水量多く頗る舟楫の便に富む蓋し大稻埕今日の殷盛を來したる所以のもの此河水の賜

と謂ふべし流を下りて郊外に出れば河上開濶にして遠近の光景一望の間に收むべく澤々たる水田の遙に山麓に馳て拓け鬱葱たる樹林の近く農家を包て點在す人の稼穡に勉め水牛の恣に青草を食て眠る誰か云ふ臺灣の瘴煙蠻雨未開の地なりと余の如此温乎たる實況を觀て心甚娛み神頗る慰む船漸く淡水港に近くや觀音山及大屯山の峻峯の翠綠を粧て我を迎ふるものと如く風光一轉人をして佳絶を呼ばしむ支社員指顧して曰此邊に點在する眺望の所謂淡水八景ありと十時半頃淡水の埠頭に着し直に上陸して「ドグラス」汽船會社に至り我乗船海門號拔錨の時刻を問ふ彼曰正午十二時豫告の如しと市街を一瞥して匆々本船に乗る然るに船長の云ふ處によれば未だ荷役を了らざるが故に豫定の如く出帆するを得ず而して積荷を終る頃の恰も干潮に際するを以て

夜に入らざれば或は出港するを能はざるを恐ると時を経るに隨て棧橋に繋留したる本船の殆んど河底に膠着したる如く更に浮動せず茲に於て一行不満を抱くと雖ども又奈何ともすべからず空しく港の不完全を嘆ずるのみ夜十時頃に至り漸く満潮となり再び船の浮き上りたるものかユラユラ然と船体を揺す茲に至り始て解纜するを得たりと雖ども豫て一見を期したる港口の状況の夜色暗黒遂に目撃するを得ざりき

因に附記す淡水港(一名滬尾街)の則ち淡水河口を出る右岸にありて南は川を隔てて觀音山に面し北の一帶の丘陵巉々として大屯山に連る市街の區域狹隘にして又擴張すべき餘地を見ず而して港内の凡一哩程の河幅ありと雖ども水淺くして満潮を待つにあらざれば外洋通ひの汽船を出入せしむるに足らざるを猶前述の

如し殊に港口淺洲横りて船舶の往來に最も不便を極む聞く從來本港の改修を企圖せざるにあらずと雖ども奈何せん淡水河の常に土砂を流して河口を埋没し外海より來る潮流の又港口に衝突して淺洲を造り一方を防ぐとき他方に害を與ふるを以て假令人工を加るも結局完全なる良港と爲すの望なしと然りと雖ども本港の夙に清國臺灣間交通の咽喉たるのみならず淡水河舟楫の便の港の不良を償ふに足るを以て今日と雖ども臺北貿易品出入の門戸となり廈門香港に對し汽船の來往するもの尠なからず支那帆船の如きは常に港内に輻湊せり亦以て臺灣北部に於ける對外埠頭として將來猶輕々視すべからざる要衝なり

## 臺灣見聞錄

余臺灣に滞在すること僅々十三日間而かも同地未曾有の水災後に際會し到る處慘狀を極め臺北に於ける商業の如きも余が着臺の當時に全く休止せるの状況なりしのみならず新竹地方則ち中部の交通機關たる鐵道破壊して遂に行くこと能はず從て觀察の區域狹少の譏を免れず況んや臺北滯留中と雖ども訪問應答の甚頻繁にして或は嬰莖に臨み或は來賓に接し或は地方に赴く等殆んど寸暇おかりしに於ておや是れ余が當初豫期したる觀察事項の一半たも覈査するに能はざりし所以假令二三の所見なきにあらずと雖ども素より皮相の觀たるに過ぎざるなり然りと雖ども今や臺灣を辭して對岸支那に遊ばんとするに方り聊か滯在中の見聞を録して足未だ臺灣の地を踏まざる知友に示すに強ち無益

の業にあらざるべき歟

夫れ臺灣の土地豊饒、原野膏腴、氣候温暖にして天然の生産に富めるを以て夙に輸出品として名聲を海外に馳するもの尠なからず就中製茶樟腦砂糖の如き其重要なるものとす而して製茶の全島第一の貿易品にして臺北の實に之れが集散の中心市場たり余今や此地に來りて茶業を見る先づ其概況を叙せざるべけんや

昨三十年臺北市場に集中したる生茶烏龍製元茶の數量凡千八百六拾万斤にして此再製輸出高千五百五十万斤餘元價六百九拾万

圓(淡水港通過高即ち全島輸出額と見て可なり)

とす而して烏龍茶の全島到る處概ね産出す

と雖ども其最も産額の富饒にして品質佳良なるもの大寮、炭川若くは基隆川に沿へる丘陵起伏の地に在り就中擺接、十五份、三角湧等の最上優等品の生産地として著名あり又普通良品に屬する

産地として北舖、新店、内湖、深坑仔、橫溪、龜崙山、銅羅園、三夾水、鹽菜礪、新埔、大湖口、尖山、石門等あり中等産茶地として、錫口、南港、水返脚、基隆、北港、三貂、宜蘭、滬尾、橫山、金包裡、芝蘭等殆んど枚擧するに遑あらずと雖ども要するに茶園所在の地勢上より三大區別を付して品質の良否を識別するを得べし三大區別とい何ぞ曰埔茶、曰山茶、曰山埔茶是なり

(一) 埔茶とい即ち平地の園圃に栽培する産茶の謂にして其品質の極めて下劣に屬するものなり

(二) 山茶とい地勢山間にある産茶の謂ひにして茶葉の品質中等に屬するものなり

(三) 山埔茶とい即ち山上の高原又丘陵傾斜地に於て生産するの謂にして茶質優等に屬す殊に傾斜地の産茶の最良品たり

又製茶即ち烏龍茶(臺灣の製茶ハ烏龍と稱する紅茶の種類にして別に包種と稱す)なり只包種ハ下等の粗茶に黄枝花秀英花茉莉花の如き樹木の花種を以て香氣を添付したる製茶の稱にして専ら南洋地方又殖民地に輸出するものにして其數量も烏龍茶の十分一以内なり故に貿易品として余の重きを措かざる處從て其記事を省く而して臺灣茶と稱するハ單に烏龍を指すものと知るべし)ハ季節上の種別あるを知らざる可らず則ち本島茶葉の摘採ハ春夏秋冬の四季に渉るものにして春茶夏茶秋茶冬茶の稱呼あること是なり

- (一) 春茶ハ毎年四月中旬より六月上旬に至る間の摘採に係るものとする形状優美なれども香氣薄弱價格低し則ち上等品四拾圓乃至四拾五六圓にして六拾圓以上の價值あるものハ殆んど稀なり下等品の廿五六圓なりとす
- (二) 夏茶ハ香氣鄭郁味ハ佳絶品質最良にして一歳中尤も聲價あるものとする而して夏茶を小別して又三種とす六月月上旬より

- り七月上旬に至る摘採の製茶を(上水茶)と稱し七月上旬より同月末に至るものを(小暑茶)と云ふ七月下旬より八月上旬に至る摘採茶を(大暑茶)と云ふ就中上水茶ハ内地の一番茶に比すべく價格高貴にして下等品と雖ども四拾圓以上に位し上等品の百二三拾圓以上二百圓を呼ぶ殊に稀優等品の此時季に出るものにして三四百圓の珍價を現せり
  - (三) 秋茶ハ八月上旬より九月下旬に至る間の摘採に係るものにして品質價值とも春夏茶の中間に位す
  - (四) 冬茶ハ九月下旬より十一月中旬に至る摘採に係るものにして品位價格共春茶の下位にあり
- 之を要するに臺灣茶の季節なるものハ四月中旬に始り十一月下旬に終るものにして六七月間の製茶を以て最も佳良となす而し

て晩季に至るに従ひ漸次佳味を失ふと雖も香氣の割合に喪失せざるが如し

臺北茶市場の城外淡水河の沿岸大稻埕にあり茶商軒を列て賣買取引を營み又盛に揀茶再製を爲す而して大稻埕に於ける茶商を大別して三種類となす曰洋行(英米居留外商)曰嗎振(組合茶莊)曰茶莊(獨立茶莊)是なり今此等の營業狀態并に商習慣を概述すれば左の如し

(一) 洋行(外商)の其本店若くは代理店を廈門に有し海外輸出の便と商機を制するの脈絡を通じ其見込買と注文買とを問はず本市場に於ては直接に製産者より生茶を買収して自ら之れを再製函詰すると同時に一方に於ては茶莊の再製したる箱茶を買集め一旦廈門へ輸送して商標を付し箱茶の外装を施

し同地より専ら米國に輸出するものとす

(二) 嗎振(組合茶莊)の其根據を廈門に有し毎年茶期節に方り渡來するものと又大稻埕に常住する者とを問はず共に一種の組合を結び同業相互に資金を共濟して金融の便を圖り盛に賣買取引を營むものにして其性質は廈門委託販賣を以て本業とするものありと雖も自家の買収茶又は委託品を再製函詰するのみならず時としては投機的大買収を企て輸贏を一舉に決することあきにあらず而して彼等又箱詰茶を担保として茶莊若くは産地荷主に對し前貸金をなして以て其荷物を廈門に送り委託販賣たらしむるの手段となすこと猶荷爲替貸附と茶商とを兼業するが如き觀あり要するに嗎振の概して資力豊かにして加るに一種の團結力に富むを以て獨

り大稻埕に於て茶業上樞要の衝に當るのみならず廈門市場に於ても大取引の機關たるべき者にして大稻埕現在の嗎振の三十四軒あり

(三) 茶莊(チヤウ)獨立茶莊の嗎振の如く資金融通の便を有せざる單獨茶商の謂ひにして製産者より個々小口の生茶(凡て生産者か齎し來る一袋四十二斤入のものにして概ね二三個の小口なり)を買取り之れを再製函箱となし専ら土地販賣則ち居留外商并に嗎振に賣込むものなれば固より少資本の者多く從て營業の規模狹少なる製造兼販賣業とも云ふべく往々仲次をも兼る者あり而して此業に従事するもの凡百五六十軒ありて臺北に集中する生茶の大半は彼等の手に於て再製箱詰せらるるものと知るべし

以上の臺北に於ける茶商の特殊なる状態を示すものにして之れ

を要するに大稻埕の産地的集散市場として發達したる商業の情態に過ぎるを以て廈門の即ち其輸出貿易市場たる地位を占むるものと謂ふ可く更に之れを概括すれば大稻埕の茶莊の製産者の齎し來る個々小量の荷口を集て再製箱詰を加へ嗎振の其函茶を取纏て廈門へ輸送し廈門に於て再び湊合的大取引行れて而して後外商之れを海外に輸送するの順序なりとす

又大稻埕に於ける生茶賣買上の習慣に至りては頗る煩雜に涉り殆んど枚擧するに堪へざる而已ならず今之を詳説するの要なきを以て爰にのみ再製函詰茶取引上の慣習に付て其一斑を記さん

箱茶の等級を分て八等となすと猶グード、ミデアム(或ハ)チヨスと云ふが如く (一)益是茶(チヤウ)凡百二三拾圓の品位 (二)誰是茶(チヤウ)百圓内外

(三)扁利士茶(七八拾圓) (四)扁盒茶(五六拾圓) (五)扁茶(四拾圓乃至四拾五圓) (六)士票茶(卅四五圓乃至卅六七圓) (七)屈脚牛茶(廿七八圓乃至卅圓) (八)巧間茶(廿七八圓以下)等の格付即ち是なり

而して箱茶一個の容量ハ我和斤三十三斤詰を普通尤も多き荷造り法とし之れを「二五斗」と稱し其半額凡十五斤詰を「一五斗」と稱す蓋し如此少量函詰法を用ゆるハ畢竟するに淡水廈門等を経由する毎に船舶積替の度數多き爲め輸送上の便宜と荷傷を少なからしむる用意に出たる習慣なるが如し

又箱茶の賣買取引ハ自ら制限ありて一手合五十箱乃至八十箱(凡二千斤)を以て見本取引を爲すの習慣にして是より少量のものハ取引するを不利とし又多量の大口物ハ廈門に非レハ概して其取引行はれずと云ふ是れ一見頗る奇習なるが如しと雖ども元來

臺北ハ區々小口の再製箱詰に従事する茶商の輻湊せる場所にして所謂生産市場なれば賣方ハ一口多量の手合を爲すこと能はざる事情あるのみならず買方ハ賣方より一口毎に見本及び入れ目其他慣習上附帶の利得を受くるの權を有するが故に賣り方の事情と買方の位置とハ相俟て如此取引上一種の慣例を馴致したるものならんか

臺北茶業の情況概ね夫れ此の如し豈に弊習の之れに伴ふこと無らざらんや況して廈門市場とハ常に往復頻繁密接の關係を有するを以て廈門茶商中窺かに粗惡茶を大稻埕に輸入して之れを臺灣純粹の烏龍茶に混淆するの弊なしとせず是れ臺灣烏龍茶の爲めに最も恐るべき弊害たり大稻埕茶商有志深く之を憂へ昨三十年臺北茶商公會なるものを設て其取締りを規約し以て臺灣茶獨



自一個の聲價を維持發揚せんとす而して會長郭春秋始め幹事諸氏熱心に規約を勵行し取締りを嚴にし陋習を矯正する等其成績頗る賞賛すべきものあり總督府又茶業に對し大に保護獎勵を加へざるべからざるを察し今や府令を以て臺灣茶業取締規則(總督府令第八十三號八)を發布せられ全島到る處茶業組合の設立を見んとす是れ余が國家の爲め心私かに喜に堪へざる處なり又余をして感動せしめたる一事ハ昨年茶商公會に於て廈門より輸入したる粗惡不正茶を發見し規約に照して之を差押たり然るに其荷主の不法にも再度まで公會を訴へたりと雖ども正理の枉ぐべからず遂に公會の勝訴に歸したる結果余が恰も滯在中右の製茶時價貳千五百圓程のものを淡水河原に於て燒棄したるを是なり因之觀之も茶商公會が如何に銳意臺灣烏龍の名聲を保持せ

んと勉むるかを知るに足る可く又如何に公共的熱心に富むかを推察するに餘りあり我内地茶業者たるもの豈に奮勵一番深く爰に猛省せざる可けんや茶業上の實況ハ上來概述する處の如し而して余本島に來り見るに及んで獨り茶業上悟る處あるのみならず産業上一般の經營に付ても當初臺灣に對して抱懷したる考とい殆んど反對の所見を有せざるを得ざるに至りしを是なり何ぞや他なし余が臺灣を見ざる以前にありてハ心私かに以爲らく臺灣の富源を開發して我國家に資せんと欲せば須く第一着に廈門の關係をして杜絶せしむるの方針を執るに若かず而して勞力の如き資本の如き皆我本國より移殖して以て大に臺灣の殖産貿易を振刷せざるべからずと然るに今や臺灣の地を踏で徐ろに觀察を下すに彼山野の如き

田園の如き其開發すべきものゝ土人によりて既に開發せられ商業の如きに至りても割合に進歩發達せるの狀あり加るに土民生活の程度甚低くして克く勞に堪へ煩に任ずるの狀況の内地勞働者の遠く及ばざるものあり況んや一葦帶水を隔る福建省の人民の産業殷盛の春季に際すれば相率て本島に來り以て製茶なり砂糖なり其他有らゆる必要の勞力を供するおや又況んや廈門臺灣間の交通至便にして支那帆船の來往するもの常に帆影相臨むの狀あり汽船の如きに至りては僅々十五時間以内を以て航海するの地なるに於ておや臺灣天然の地勢夫れ此の如し猶之れを比喻すれば我内地の遠き親類なり廈門の近き他人なり俗に云ふや遠き親類よりも近き他人と殊に今日廈門の他人なりと雖も元來臺灣を生みたる母なり我の成長したる臺灣と云ふ幼者を入れて

子とせしものなることを知らざる可らず然らば則ち臺灣の産業をして益發育せしめ天賦の沃土をして彌々豊富ならしめんと欲せば宜しく廈門を臺灣の傅母となして利用せざる可らず何となれば殖産興業の勤勉にして低廉なる勞力によらずんば發達すること能はざるや經濟上自然の理勢にして此點より觀察するときは内地勞力者を強て移さんよりの遙に低廉勤勉にして交通の至便なる對岸福建省の勞力を待つを得策とすればなり然りと雖も臺灣の殖産貿易をして健全なる發達を促さんと欲すれば現在の母國たる我の彼に對し大に保護獎勵を加へざるべからざるや勿論なり而かも其急務なるものを舉れば金融機關の設備。港灣の修築。鐵道の布設等即ち是なり先づ金融機關の必要より説かんに臺灣に於ける唯一の銀行とし

て日本銀行出張店ありと雖も單に總督府の出納を司るに過ぎざるを以て毫も商業的機關たるの働を爲すこと能はず又大阪中立銀行支店あれども其營業の規模狹少なるのみならず不幸にも今や行務甚振へざるの觀あり去れば本邦商人の臺灣商業に従事するものへ常に不便不利を訴へざるべし假令へば臺灣の圓銀を以て賣買取引上の通貨となすに拘らず圓銀を得んと欲すれば時として土人の兩替店に付て其交換を求めざるを得ざるが如きとあり又海外爲替の賣買によりて金銀比價の變動を制するに足る銀行の設なき爲め勢ひ銀貨騰貴したる場合に土人に交換料を貪られ之れに反し下落したる場合に土人の仕入に困難を感ずるが如きと是なり(日本銀行當時の圓銀交換價格の金壹圓に對する圓銀九拾貳錢なり)又金利の如きに至りても土人間に在りては確實なる商品を擔保に供するとき

の月一步乃至三步の利息を以て自由に貸借を辨するの道ありと雖も内地商人の假令相當の擔保を備るも猶月五歩以上一割を支拂へざれば融通の便を得るに能へざるが如き情況なり而して如此不便不利を免れざる所以のものへ畢竟商業的有力なる金融機關の設備なきに因らずんばあらず是れ政府が曩に計畫せられたる臺灣銀行設立の急務なるを切に感ずる理由の要點なり余乏を享けて該銀行設立委員の列に加るもの此事に關して臺北滯在中書を裁して當局大臣に事情を具する處ありしが要するに臺灣銀行の設置の一日も之れを緩漫に付すべからざるを認ると同時に該銀行設立に關して凡そ左の如き方針を執るの得策なるを見る

一 本店を臺北に支店を厦門に其他臺灣全島樞要の地に數ヶ所

を設るる

五十

- 一 株式の内地人より専ら募集するも可なりと雖も可成土人を加るを可とす
- 一 土人の蓄財力の驚くべきものあり故に彼等をして銀行の功用を知了せしむるに信用名望ある土人に株式を所有せしめ且相當の地位を與ふるも一策なり
- 一 夏期の茶其他輸出時季にして冬期の輸入季節なり故に爲替資金の如き其時期に相應して備へざるべからず
- 一 歐米人の未だ有力なる銀行を設けざるに先て臺灣銀行の速に設立するを要す
- 一 廈門と臺灣との經濟上離るべからざるの關係を有せり故に之を利用せんと欲せば第一着に廈門に支店を設るを可とす

一 臺灣銀行に土人の貯金を吸集するに足る方法を執るときに  
皆に銀行の流動資本を豊かからしむるのみならず間接に  
爲政上偉大の効果を奏すべきこと疑なし

次に臺灣貿易上最も急務あるもの、港灣の修築あり元來本島の  
海岸線の屈曲甚少く風波を避るに足る安全なる碇泊場の殆んど  
之なしと云ふも可かり彼の北岸に於ける淡水基隆兩港の如き西  
岸に濱する安平打狗の如き商港として共に著名なるものありと  
雖も港灣其物の良好あるが爲めに開港せられたるにあらずし  
て畢竟商品輻湊の都會に接近するが爲め強て船舶を出入せしむ  
るに過ぎざるが如き狀ありと云ふ現に臺北に對する淡水基隆兩  
港の如き臺南及鳳山に於ける安平打狗の關係の如き皆然らざる  
をなし余南部地方に到るの機會を得ず隨て安平打狗兩港の實況

五十一

を見ずと雖ども聞く處によれば安平の臺南を西に去る凡一里臺南貿易品出入の門戸にして其碇泊場の海岸を距る一里許にあり海中沙洲多く波浪常に高くして殊に西南季候風の時の船舶の碇泊に最も困難を極むと又打狗の鳳山の西方に位し我内地輸入砂糖の輸出港として名ありと雖ども港口填塞して淺洲を生ずると猶淡水の如き狀あり汽船の門洲の外に投錨して風波の來襲に任せ小汽船又の平底の舢舨を以て纜に貨物の揚卸を爲すと云ふ南部の要港概ね此の如く北部に於ける淡水基隆の情況の實見上既に其一班を述たるが如し(八月十四日基隆行 廿日々誌參照)是れ豈に環海の孤島たる臺灣の一大恨事ならずや

然らば即ち將來の商港として内外に對する天然的形勢の地位を有し又人工を加るに於ては大船巨舶を優に輻湊せしむるに足る

べき港灣を撰で是非とも一大良港を造出さざる可らず是れ獨り殖産貿易上の最大急務なるのみならず本島經營上一日を緩ふすべからざるの大計なればなり而して其撰に當るものには北部唯一の良港たる基隆を外にして又之れあるを見ざるなり基隆築港の方法に至りては余輩素人の固より容喙する能はざる處なりと雖ども而かも其内外に對する形勢上寔に臺灣第一の地位を有する點に於ては何人も感を同ふする處總督府の夙に爰に着眼して銳意畫策せらるゝや亦故ある哉余の一日も速に基隆築港の事業に着手せられんことを切に望まざるべからず

臺灣鐵道布設の議あるや或は民設を可とし或は官設を唱て未だ成らず曩に臺灣鐵道會社發起せられたりと雖ども不幸にして時恰も戦後經濟界不振に際會し今や殆んど成立の望なきに至れり

然れども熟ら本島經營の大計を按ずるときは生産上に將た國防上に相俟て急設せざるべからざるや喋々を要せず若し夫れ幸にして基隆築港の計畫成るありて大に海上交通の便を得べしとするも本島貫通の鐵道にして布設せざらんか猶鳥の右翼を備るも左翼を欠くが如き憾みあらんのみ又臺灣をして活動せしむるに能はざるなり説て爰に至れば政府の區々の困難を排し情實に拘泥するなく寧ろ國家事業として速に官設鐵道布設の方法を講せられんことを希望するもの也

今臺灣の記事を終らんとするに臨み砂糖樟腦等重要輸出品の情況を付記せんと欲せざるに非ずと雖ども此等の商品の其生産地中部及南部にあるが故に余の親しく實見を経ざるものに屬す故に之れを省き貿易年表より左に製茶砂糖樟腦の統計を拔萃して

以て聊か參考の一端に供すと云爾

臺灣輸出重要三大品概表

島龍及包種 内	明治三十年		明治二十九年	
	數量	元價	數量	元價
自淡水	一五、三六、五三	六、五五、八六〇	一五、九三、四三	五、八四、〇一九
自舊港	一、七〇〇	一七〇	—	—
此仕向先				
支那	一三、〇三、七六	五、六八、一五〇	一五、二七、四二	五、五八、三〇八
香港	九、七七	三、三六一	一〇、〇〇	三、〇四、六
英國	一五、一八六	六、六一	—	—
米國	二、〇九、九四	一、二八、九六	五、六、八〇	二、五、三三

其他諸國	...	...	...	...
粉	...	...	...	...
內	...	...	...	...
自淡	...	...	...	...
此仕向先	...	...	...	...
支那	...	...	...	...
香港	...	...	...	...
米國	...	...	...	...
莖	...	...	...	...
內	...	...	...	...
自淡	...	...	...	...
此仕向先	...	...	...	...
支那	...	...	...	...

香港	...	...	...	...
其他諸國	...	...	...	...
白砂	...	...	...	...
內	...	...	...	...
自淡	...	...	...	...
自安	...	...	...	...
自鹿	...	...	...	...
自東	...	...	...	...
此仕向先	...	...	...	...
支那	...	...	...	...
香港	...	...	...	...
其他諸國	...	...	...	...
赤砂	...	...	...	...

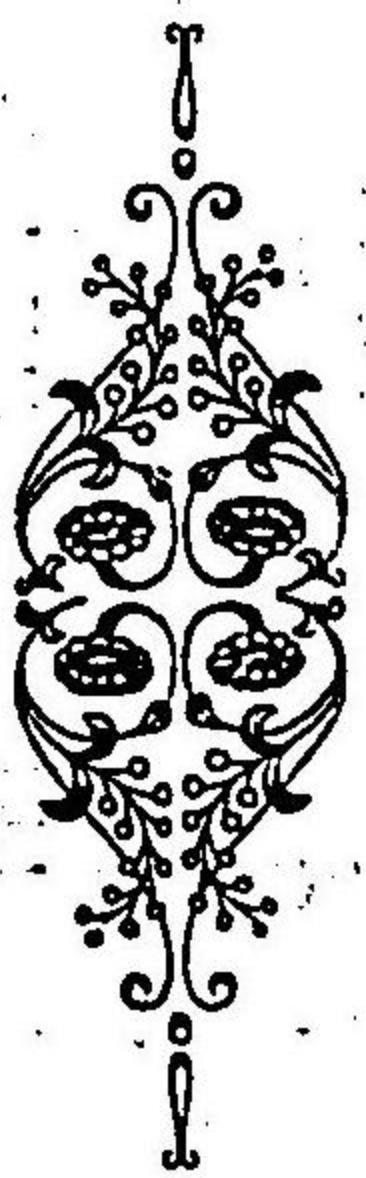
內	自淡	三三、五四三	一、四三三	一〇四、二七五	三、六三七
	自安	三五、〇三六、七五七	九六四、一九七	二七、七六、三〇七	一、〇一七、〇八二
	自基	—	—	八、九〇〇	—
	自隆	九七、九五二	二、九四五	—	四、五六五
	自打	四七、六〇〇	一、四三八	—	—
	自梧	二九、九三三	二、二二二	—	—
	自鹿	五、〇四七、六二五	一六五、二二六	—	—
	自東	—	—	—	—
	自石	—	—	—	—
	自媽	—	—	—	—
	自宮	—	—	—	—
此仕向先	支那	三〇、三九七、七三二	一、一四〇、二六六	二九、五三六、三六九	一、〇七、六二一
	香港	—	—	—	—
	其他諸國	—	—	—	—
樟	腦	三、一七四、二〇六	一、三三九、一六六	四、三九五、九三二	二、二四七、九三〇

內	自淡	二、八三三、七〇四	一、二〇〇、六三四	三、五五五、六二二	一、七三三、八二四
	自安	—	—	—	—
	自平	—	—	—	—
	自舊	—	—	—	—
	自港	—	—	—	—
	自鹿	—	—	—	—
此仕向先	支那	—	—	—	—
	香港	—	—	—	—
樟	腦	—	—	—	—
內	自淡	—	—	—	—
	自安	—	—	—	—
	自平	—	—	—	—
此仕向先	支那	—	—	—	—



附言

昨三十年代本島生産品にして海外へ輸出したる總金額ハ千貳百六拾六万五千四百二拾二圓なり而して此内製茶の輸出高ハ六百九拾壹万七千六百七拾五圓して正に總額の半數に超過す又砂糖ハ百四十九万四千〇四拾壹圓樟腦ハ百三拾三万九千四百三拾五圓なり今此三大重要輸出品を合するときハ此金額九百七拾五万千五百五拾壹圓となるを以て臺灣輸出總額の實に八割程を占るものと知る可し



八月廿一日 厦門着 (晴天海上平穩午後温八十八度)

昨夜來天氣平穩航海に適せりと雖も所謂臺灣海峽の黒潮横流して波瀾を揚げ我乗船海門號を打つ正午頃甲板に出れハ右舷遙に大陸の秃山巔々たるを望む午後二時半頃厦門に入港す港頭先づ眼に映するものハ我軍艦秋津洲號あり旭旗高く檣上に掲て獨り港内に威を振ふ頗る人意を強ふするに足る

茶商郭春秧氏手代數名を率ひ自家のボートを馳て本船に來り迎ふ(郭氏の厦門の巨商なり數日前臺北より當地に販り余の來着を待つ)則ち之れに搭じて鼓浪嶼コウラクシマに上陸し「ホテル、コスモポリタン」に入る

鼓浪嶼ハ周圍凡四哩厦門本島(一名鷺島)と相對して港の南岸に位す兩島の距離凡六七町港勢海峽の狀を爲す嶼上巨岩怪石聳ゆ船中より之れを望めハ恰も盛夏雲峯の懸るが如く又一幅の唐畫を

看るが如し各國領事館洋商の住宅等ハ概して此嶼中の好地位を占むホテル二あり「ダムソン」「ユスモポリタン」是なり然るに我一行の投したるホテルの客室の設備完からず不愉快を感ずと雖ども「ダムソン」の目下修繕中にして他に適當の旅館なきを奈何せん且前途を急ぐを以て來廿三日當港開帆海門號に乗繼ぎ香港に向ふことに一決す

郭氏令兄と共に旅館に來り訪ひ明日余の爲めに歓迎の宴を開く旨を告ぐ滞在餘日なしと雖ども其厚意を享て參會を諾す

八月廿二日 廈門滞在 (陰晴不定午後小雨温前日より低)

午前九時余の一行ホテルを出で先づ領事館に至り領事上野專一氏に面會して一二の要談を了し夫より對岸廈門本島に渡り「ドグラス」汽船會社に就て海門號出帆の時日を確め更に茶商水陸洋行

を訪て館主ブラオン氏に質すに廈門市場の情況を以てす

氏曰く本年當港の茶況ハ甚不振にして今日に至る迄の輸出高ハ昨年比し貳百萬斤以上を減少せり而して之れが重なる原因ハ米國に於ける關稅の實施と粗製茶輸入拒絶條例の勵行による、知らるゝ如く廈門烏龍茶ハ從來臺灣烏龍と共に合衆國へ専ら輸出せられたりと雖ども昨年粗製茶輸入拒絶條例改定以來著しく減少し本年に至りてハ其標準見本の程度を一層高くしたる結果廈門烏龍ハ大体不合格のものとなり加之輸入稅の影響を蒙り今や殆んど其輸出を杜絶したる姿なり

余曰く果して然らば廈門烏龍の製産者ハ本年發生したる茶葉を如何にせしか又製造を改良せしむるを能はざるか否や

氏曰く殖民海峽地則ち新嘉坡地方にハ從來下等品の需要あり本

年も既に百万斤程の輸出せり乍併第一の需要先たる米國にして前陳の如き有様なれば茶價低落して製産者の收支全く相償はずとなし摘採を中止したるものあり又失望の極茶園を廢して蕃薯を作るものあるに至れり情況夫れ此の如し假令彼等に對して改良を促すも奮勵事に従ふの氣力なきを如何せん云々夫より氏の案内により拜見場に至り其取扱に係る支那紅綠茶并に臺灣烏龍等數十種を一見し品評を試み將に氏と袂を分たんとす氏懇に余に告て曰一回私邸に於て晚餐を饗せんと滞在餘日なきを以て厚意を謝して辭す次に怡和洋行に至り支配人レーブルン氏に面會し當地茶業上の概況を糺し而して後同洋行を出るや更に郭氏の東道により支那人の銀行萬記號に到る(銀行兩替の業を營む票號と稱す)主人邱增喜氏茶煙草等を出し款接す此店舖の廣大なる建築の二層樓にあり

又樓中日本商品陳列場ありと雖ども規模狹少陳列の物品看るに足るものなし(此邊の海岸に近き樞要の市街にして煉瓦若くは石造の三層造り又小賣商住し二層樓の仲買銀行等一室又數室を占て業を營む雜居の家屋なり)夫より一行轎子に乗て大厦巨屋の間白晝猶日光の射入せざる狹隘の市街を廻り行くこと二三丁郭春秋の商店錦祥洋行に到る郭氏紅茶數十種を排列して品評を求む則ち品質の優劣を評し茶菓を喫し暫時休憩の上更に轎子に駕して本日饗宴の會場と定められたる市外の巨刹南普陀寺に向ふ

其廈門市中を横斷して行くや到る處市人の來往雜沓を極め賤民又群集して喧囂を極む路上切石を布くと雖ども其道幅狹く纔に行人を排して轎を遣るに過ぎず殊に驚くべきは夜間屋内より放出したる汚物の人の蹂躪する所となりて粉碎せられ日中に至れ

の塵埃と相混して街路に飛散す異臭鼻を衝て至り汚氣衣袂を襲ふこと是なり聞説く歐米人の厦門を目して世界開港場中最も不潔の市街となすと夫れ或は然らんか

如斯街衢を通過して市外に出れば只見る山上山下皆黒色を帯たる怪崑奇石ならざるはなく其間を點綴するに楕圓形白色の墳墓疊々として連るを見る一種悽愴の感あり(墳墓の長一間程の寢棺にして外部の漆喰にて包み地上に露出せし)而して平坦の墓地を進むと五六町倏ち奇嶮たる丘陵となる或は猛虎の俯瞰するが如き怪岩を仰て登り或は蛟龍奮獅と相對するが如き奇石の間を降る又左方一帶の山腹の巖石磊々姿態萬狀愈出で愈奇を極め右方遙に危礁亂立して波濤の間に走る奇觀爰に至りて極る時に急雨來りて轎窓を打つ光景蕭々一種の感を惹て南普陀寺に臻る

南普陀寺は厦門第一の名刹にして開祖を慧日禪師と云ひ八百年以前の建立に係ると云ふ本殿の前面に觀音堂あり圓柱六角造りの塔にして彫刻亦看るに足る堂宇壯麗境内清淨なり堂背の則ち巨岩重疊大石俯仰するの山に據る休憩の後山に登る雨至りて觀望に便ならず則ち下りて客殿に至れば郭氏等準備既に成るを告て宴席に就かんを望む(聞く當寺院の清潔にして周圍の光景奇觀なるを以て貴紳高官の饗應に必ず茲に於てすと又一奇習と謂ふ)乃ち余の一行卓に着く領事館員數名席を共にす郭氏恭しく盃を舉げ象箸を供て開筵の式を行ひ酒三行にして彼れ余に對して懇篤なる挨拶をなす余則ち起て彼の好意に答ふ燕巢の羹饜鱈の汁山海の珍味を盡して交ふ至り勸るに三鞭酒を以てす又興を添るに妙齡の美女四名を待せしむ男技二名之れに従ふ酒酣にして彼等我所謂清樂を合奏す妓名阿嬌と呼ぶもの外二妓胡弓月琴

を取り且謳ふ男技背後にありて鼓鐘及木琴を打つ其奏する處の  
 機房教子孫子祭江等歴史的の曲なりと云ふ音吐玲瓏抑揚自在或  
 の急調或の緩調余輩支那音を解せざる者をして猶一種の妙を感  
 せしむ郭氏兄弟荐りに乾盃ヤギを侑む（乾盃といふ主客互に盃を乾して相示す  
 支那人筵席の禮なり我献酬の如く交  
 換の煩なし）乾盃々々又乾盃陶然として耳熱するも宴を撤するの期を  
 知らず遂に固辭して宴席を去り鼓浪嶼の旅館に皈る時正に港内  
 の船舶燈光を放つ頃なりき  
 此夜領事上野氏來訪し明早朝共に港内を巡視せんを約して去  
 る

八月廿三日 午後厦門乗船 （曇天暑氣強し）

午前六時「ホテル」を出で、領事館に至り館のボートに搭して上野  
 領事と共に港内を巡覽す蓋し余出發前外務大臣大隈伯に面謁の

際話次本港に於ける我居留地撰定の件に及ぶものあるに由る先  
 づ鼓浪嶼の沿岸に添て舟を港口に進め更に對岸に轉じて英國居  
 留地先に戻し其港勢を一瞥す

憶ふに本港中樞の區域たる英居留地に接する邊の大厦稠密寸尺  
 の餘地なく港口に近き所の岸淺くして船を寄するに能はざるの  
 みならず市場に遠きを以て不可なり而して石油タンク所在の邊  
 の其海岸岩礁の犬牙出入するものありと雖も之れを開鑿し海  
 面を埋立つる等人工を加るに於て、港の中央に接近するを以て  
 商業を營むに便なり是を措て他に我居留地となすべき適當の地  
 位なきが如し幸に此邊を撰定するを得、本邦商人の便宜之れに  
 過ぎざるなりと遂に鼓浪嶼に上陸し領事館に休憩す上野領事朝  
 餐を命じて余が一行を饗せらる終て客室に出れば臺商陳中和氏

(氏の臺南及横濱に於て砂糖を業とする巨商なり)余を訪ひ來りて爰に在り則ち久澗を叙し一二の要談を試み袂を分て旅館に皈る時に乗船の時刻迫るを以て匆々行李を理し再び領事館に立寄る領事孟を舉て送別の意を表せらる十一時海門號に乗込む上野領事郭春袂其他諸氏本船に來り送らる一行の中松本龜次郎ハ廈門に止りて社用を了し臺北に歸るものなるを以て爰に於て別る

海門號元來定期郵船にあらず例に依て豫告の出帆時を過つと三時間餘午後四時前に至り進行を始む右舷大陸の沿岸を望て走る海上風波穩かなれども夜に入りて船体動搖す蓋し積荷輕き爲め吃水淺きが故なりと

### 廈門瞥見錄

廈門ハ支那南岸の中央に位し港内水深く船舶の來船に便なるを以て夙に海上交通の要衝となり今より三百數十年前既に和蘭葡萄牙、西班牙等の商人來りて交易を營み降て千八百四十二年南京條約の結果英國の爲めに開かれたる互市場たり

又我人口に膾炙する奇傑鄭成功(國性爺)の如き此地に據りて一舉臺灣を經畧し再舉して明朝回天の偉業を企てたる根據地なり更に遡りてハ我胡蝶軍の如き屢々波濤を冒して此地に侵入し以て雄を振ひし跡歴々証するを得べし現に余が一行港内を周覽するや海面に對する天然の巨石を削りて所謂倭寇防禦の紀念碑となすもの二三を瞥見せり以て本邦昔時の冒險者が遠く此邊海を犯し鬱勃たる霸氣を洩らせしかを知るに足るべく又以て廈門ハ往

古より本邦人と因縁を有する地なるを察するに足る況んや我新領土臺灣と一葦帶水を隔てて相對し交通來往の便無比の地形なるおや臺灣に於ける勞力の如き資本の如き夙に此地より移入せられたる又故なきにあらざるなり

去れば廈門の人民の其巨商たると賤民たるとを問はず殆んど臺灣に關係を有せざるもの無しと云ふも可なり更に個人的關係に就て一例を舉れば子弟或は乾兒の臺灣にありて生産事業に従事するものとせば父兄若くは親分の廈門に於て其資金を給し金融を計り以て生産物販賣の衝に當るが如し因之觀之廈門臺灣間の關係の地形的、人事的、經濟的の三者相俟て密着するものと云ふべく其因縁の容易に離るべからざるを知るべし

然り而して臺灣第一の生産品たる烏龍茶の廈門を経て専ら海外

へ輸出せらる而して廈門固有の製茶所謂廈門烏龍の年々衰頽に傾向して今や殆んど廢絶の悲境に陥れり故に廈門今日の茶市場の全く臺灣茶の集散によりて維持せらるるものと云ふべし

昨千八百九十七年臺灣茶の廈門を經由して海外へ輸出したるもの千三百貳十貳万九千三百斤とす此内七百貳十七万六千斤の在臺北居留外商の買入品にして船舶積替の爲め回送せしものなれば差引五百九拾五万三千三百斤の廈門嗎振によりて輸入せられ當港居留外商に販賣せられたるものに屬す

又廈門茶の今を去ること二十五年以前に在りての實に六百五拾八万斤を輸出せりと雖も年を逐て其輸出額を減少し剩へ昨年北米合衆國に於て粗製茶標準見本を制定し廈門茶に一大打撃を加へしより忽ち其影響を蒙り昨年の輸出高は僅々百廿一万六千

四百斤となり本年五六月間の輸出高は百万斤となれり而して其仕向先は新嘉坡西貢瓜哇等にして所謂海峽殖民地需要の粗製茶なり又米國は本年に至り標準見本の程度を引上げたる結果廈門茶は全く不合格のものとなり今や米國に對しては其輸出を杜絶するに至れり亦以て衰況の慘なるを知るに足る而して如此悲境に陥りたる所以のものに畢竟するに賣行く以上の如何なる粗悪不良品と雖ども製産したると同時に茶商は又一時を喘着して猥りに不良茶を混淆したる結果全く海外需要者の信用を失ひたる以外ならずと余輩本邦茶業者たるもの前車の覆るを見て豈に深く茲に鑑みざるべけんや

偕て廈門は純然たる集散市場なれば生産的市場たる臺北に比して自ら商業の状態單純なるを看る廈門の茶商を大別して二とす

曰く洋行曰く嗎振是なり

而して目下廈門に於て輸出業を營む洋行則ち外商は嘉士和記水陸怡和德記の五洋行となす是等の洋行は何れも臺北に支店若くは本店を置くものにして臺北の洋行と同一体のものなり只其異なる點は臺北の洋行は在ては茶莊より箱茶を買入るのみならず自ら再製箱詰を加ると同時に洋行專屬の茶莊(此類の茶莊を包庄館と稱す)を置き再製函詰を爲さしめ荷數を取纏めて廈門に送致し來るものとし當地洋行に在ては其回送の箱茶はアンペラ掛蘭字等外装を施して輸出の取扱を爲すと同時に當地嗎振の荷受したる箱茶を買込て商畧を廻らすはあり故は倉庫及荷造り場を有すること臺北洋行と異なることなしと雖ども只再製を加ふるの煩なきを以て其設なきのみ



嗎振の所謂委託販賣にして臺北嗎振の如く製造場を有せず只二層又の三層樓に店舗を構へ荷物の概して外商の倉庫に引込て保管を托し然る後商談を試るものとす其賣込手数料の目下千圓に對する貳拾圓にして其折半拾圓を商館倉敷諸掛として洋行へ差出すの習慣なり而して嗎振の臺北の嗎振若くの茶莊と毎に連絡を通じ又所謂包庄館となりて外商と結托するものあり其戸數拾六軒なり

廈門より米國へ輸出する茶荷物の蘇西廻り送りと太平洋廻り送りの二途あり茶季節に際すれば特に汽船を仕立てて輸出するを常とす其運賃の蘇西廻り一封度に付壹錢九毛太平洋廻り一封度壹錢五厘の割合なり又臺北廈門間の運賃の三十三斤入(則ち二五斗函)一箱に付拾貳錢五厘なりと聞く

之を要するに廈門の茶業の海外に對する船舶交通の便宜によりて發達したる商業の状態に外ならず而して臺灣茶の輸出港たる地位を專有するの素より兩地間密接の關係あるに起因すと雖も畢竟するに從來臺灣より直接に米國航路と連絡すべき交通の便なきによらずんばあらず果して然らば臺灣本邦の領有に反したる今日基隆港の如き速に浚渫を加へ内外の大船を寄港せしむるに足らしめんか遂に臺灣茶をして廈門を經由せしむるの必要なきに至らしむるにあらずや是れ臺北及廈門外商の大に注目する處更に之れを事實に徴するも一昨廿九年にありては臺灣茶の廈門を經由したる高千八百〇四万斤なりしが昨年ハ千三百貳十二万斤に減少したると同時に淡水基隆兩港に於ける直輸出の増加したる一事を以て見るも既に其傾向顯然なりと云ふべし是れ

豈に我茶業者の任として益此趨向を利導すべき秋にあらずして何ぞや蓋し厦門の如き粗製茶の輸出を以て名ある地を經由せしむるの臺灣烏龍茶の名聲を維持發揚せしむる所以の道にあらずればなり

八月廿四日 香港着 (晴天海上平穩午後香港温八十八度)

朝來海上平穩午後二時頃船香港海峽に入る甲板に出でて觀望すれば左の則ち香港島にして赤禿の山上に燈臺あり又砲臺あり右の支那大陸の海岬なり進て港口に近くに兩岸の山勢漸く狹窄して僅々四五町幅の航路となる其丘上への砲臺を築き巨礮を備へ其麓への水雷廠を置く所謂一夫之れを守れぬ萬卒侵すべからざるの天險なり之れを過ぐれば香港港内とす茲に至りて船進行を止む蓋し檢疫を受ける爲めなり午後三時港内を徐行して殆んど中

央の區に投錨す旗艦センチュリオン號大巡洋艦パール號を始め幾多の大艦巨舶輻湊して東洋第一の港灣たる盛觀を呈す出迎の小汽船に移りて香港ホテルに投す

午後五時頃我領事館を訪ふ館員不在なり依て「クイン、ストリート」ウエリントン街を散歩して旅館に歸る

八月廿五日 香港滞在 (午前晴午後乍晴乍雨温八十五六度)

午前九時ホテルを出でて正金銀行支店に至り支配人長鋒郎氏に面會し一二の要談を遂げ夫より郵船會社支店を訪ひ支配人三原繁吉氏に面晤す

午後長氏の紹介により香港商業會議所會頭アール、エムグレイ氏に面會し二三貿易上の情況を聞き更に歩を轉じて担查銀行に至り支配人ホワイト、ヘッド氏を訪ひ經濟上の所見を叩く

氏曰く貴國の戰後經營の餘響を受けて國費膨脹の結果近來生産的資本の欠乏を感じ政府の又民間の財源に不足を告るをも願みず、荐りに増税せんとするものと如し果して然らば何を以てか克く殖産貿易を旺盛ならしむるを得んや貴國の近情を察するに意氣餘りありて財力之れに伴はざるに似たり故に政府の宜しく政府自身が大に外債を移入する方法を講じ以て將に興らんとする民業の發達に資せらるゝと今日の急務ならんと思ふ余は貴國の信用と國力とを以てせば其外債の蓋し四歩利位にて幾干よても募集し得るの道あらんと考るものなり

余曰く貴論誠に然り然れども外資移入の事たる輕々論斷すべからざるの國情あり果して貴説の如く容易に招致するを得ば我生産界の幸福之れに過ぎず敢て教を乞はん

氏曰く其方法手段に至りては余の敢て容喙するを欲せざる處なりと雖ども理論上貴國今日の情勢は於て外資の注入を急務と認め且政府の自ら進で外國債を招致するに足る方法を求めらるゝを得策と信ずるのみ云々遂に辭してホテルに歸る

八月廿六日 香港滞在廣東夜航 (晴驟雨屢至る温八十六度)

午前八時郵船會社支店に至る三原氏約により會社の小汽船を出し余が一行の爲めに自ら案内者となりて港内の大勢を周覽せしめらる

先づ郵船會社前の海岸共同棧橋を發して港の中央に出で船首を東方に向け大船巨船輻湊の間を縫て走る願れば南岸へ則ち海拔千八百尺の峻峯ヴィクトリヤ山よして突兀巍然たり其海岸一帯の平地より山腹凡五六百尺に至る傾斜面の所謂殷盛東洋に冠絶

たる香港中樞の歐州的市街なり三層以上五六層の大厦高閣の巍々堂々海岸より起りて山の半腹に連亘す何ぞ其建築の雄偉壯麗なる何ぞ其街衢の整々稠密なる看よ綠樹鬱然たる公園の畔より山巔に架せられたる索繩鐵道<sup>ケーブル</sup>の遙に其客車を上下せしめつゝあるにあらずや更に以東の山腹を仰けり嵯峨たる絶壁を繞す一の大遊歩道を開く恰も長橋の大空に懸るが如し而して此邊の海岸線の諸會社の倉庫所在地となす順次東に船を進むれば海軍病院及「ジャードン、マデソン」商會「バスターフィールド」商會の砂糖精製場あり宏壯なる建築山に據りて連り海に臨て聳ゆ就中「バスターフィールド」の製糖場の規模雄大居然城郭の如し一見して香港に於ける最大の製造事業なるを知るに足る

是より以東の港外に屬し石油タンク并に其製罐場砲臺等あり皆

偉觀を以て此海岸の光彩たるべきものなり茲に至りて船首を西に回轉し香港市街と相對する九龍半島の沿岸を見る

九龍<sup>コウロン</sup>海岸に於て最も壯觀目を驚かすものゝ香港黃浦船渠會社并に香港九龍倉庫會社の設備是なり其東端にある第二「ドック」の如き夙に東亞無類の巨大を以て稱せらるるもの目下米國郵船の入渠するを見る第二「ドック」の其渠を仕切りて一時は二艘の大船を容るゝの設計なり又倉庫の海岸に沿て建連らる岸深くして如何なる大船巨船と雖も自由に倉庫の下に來りて横付すべく加るは棧橋起重器輕便レール等の諸機關を備へ貨物の揚卸を便にす設計偉大は貨物拾萬噸以上を吞吐して猶綽々餘裕ありと云ふ眞に羨望の情に禁へざるなり

夫より船を港の西南隅に馳て「ストーン、カッター」と稱する小嶼を一

週す嶼上兵營及砲臺を置く植るに赤松を以てす光景秀麗なり又此邊の海上に於て巨大なる病院船及倉庫船等の浮ぶを見る支那人街の海岸に沿て中央の乗船場へ販り上陸す時に驟雨一過して炎熱を洗ふ

午後公園に到る公園ハ我旅館香港ホテルを去るに甚遠からず山の中腹斜面に在り規模廣大ならずと雖も園中潔麗にして一點の塵埃を留めず殊に其園藝に至りてハ余輩素人眼を以てするも感嘆措かざらしむ元來香港島の全島花崗石より成る礫礫の地にして山に樹木なく地は綠草を見ざる瘴癘の孤島たりしもの一朝英人の領有に歸してより巧は水源を涵養して力を植物の培養に盡し嶮惡露骨の山を變じて翠綠露滴るの佳境たらしめ以て瘴霧を掃ひ以て萬民の健康に適せしむ其公園の如きに至りてハ熱帶

温帯に屬する異木珍草を網羅して餘さず樹木鬱として綠蔭涼を呼ぶに足り幾百千種の花弁の妍を競ひ艶を抽んで清香馥郁園に滿つ足一回び茲に至れば誰れか恍然として快を感ぜざるものあらんや人力造化の巧を奪ふといふ夫れ是等の謂ひなるか

此日上海に向て出帆すべき船都合を問ひしむ次回の上海便へ來る三十日解纜の佛國郵船なりと該船に搭じて當地を發すると豫定するも滞在聊か餘日あり依て俄に廣東を一見するの議を決し午後六時出船の香港澳門滙船會社佛山號に投ず正金銀行雇支那人某余の一行に加る船時よ及んで分秒を過たず棧橋を離れ港の西方大陸の峯巒を望て走る而して其港外に出るや大小幾多の島嶼流るゝが如く夕陽を受けて映し來り映し去る碧海波平かにして赭山近く聳へ遠山逶迤として消ゆるが如く雲霧に隱る恰も湖

中を行くが如し航路屈曲方向を辨せず日全く没して月明之れに代るや船進で廣東河口に入る兩岸の形勢歴々指顧すべし八時頃に至り進行を中止して中流に投錨す蓋し河上淺洲あり干潮に際するを以て溯ること能はざるが故なりと遂に寢室に入りて一睡の夢を結ぶ

八月廿七日 廣東巡覽 (晴酷暑夜雨あり)

黎明右舷に出れば船既に進んで曉霧靄靄の間は廣東城を望む船脚速かよして府城の光景歩一步より鮮かに堂塔嶄然雲表に聳へ巨屋甕を連ねて一大都府の偉觀を顯出す

廣東河(一名珠江)の府城の東南を繞り濁水滔々として流る其本流は遠く西に遡りて廣西省の平野を縱横すると云ふ船漸く徐行して廣東の埠頭は近づくや舳舟群を爲して争ひ至る則ち沙基(居留

地)の北隣にある會社の棧橋に繋留す河中幾千万の支那形大小船を浮ぶ其雜沓名狀すべからず直に上陸して居留地内の「ホテル、ヴィクトリア」に入る時に午前六時過なり

沙基居留地の東南の二面珠江に臨み西北ハ溝渠を設け二ヶ所の關門を置く支那番兵あり土人の猥りに入るを許さず居留地の戸數四五十を出てす頗る寂寥たり朝食の後支那人案内者を僦ひ一行轎を列て西門を出て府内巡覽の途に上る市街到る處殷富にして巨商大賈軒を聯ねて賣買に従事し商品類を以て聚り業を以て分つ假令への打銅街の銀行問屋業等の豪商多く漿欄街の藥材及丸藥を以て名あり双門底の書籍舗の輻湊するが如し或は珠玉寶石、貴金銀器或は綢緞、刺繡或は紫檀黑檀の家具或は象牙細工等概ね類を以て軒を列べ金色燦然たる招牌を掲ぐ道路布石道にして

厦門の如き汚臭なしと雖も其幅ハ六七尺を過ぎず往來の混雜眞に肩摩轂擊の狀あり家屋ハ皆造るに煉瓦を以てす間口狭くして奥行長し店頭の正面ハ彫刻を施し金碧を鏤め恰も我佛壇の如き粧飾を加ふ而して其兩側を作り付の棚となし商品を陳列す如此殷富なる街衢を縦横に廻りて市内中央の區にある某寺に至り院内に安置する五百羅漢を見る羅漢ハ其大さ普通人体に等しく金碧燦爛古色を帯び彫刻又看るに足る其中伊太利の奇傑「マルコポーロ」の像あるを見る又一奇と云ふべし只不快の念を起さしめたるハ寺院の境内乞丐群集追躡して錢を強請する是あり寺院を去て織物刺繡繪畫彫刻等の職工街に就て其實況を視る次て貢舉試験場所謂郷試場に到る門上扁額を掲て曰青雲登路と場内の規模廣大受験者一萬八千人を容るゝに足ると云ふ夫より又

熱鬧の市街を通過して或る城門の櫓上に登り五百年以前の時辰器水時計を見る爰を出て役人町とも云ふべき處を經過す門戸嚴然支關の正面に紅紙を貼付し大書して曰く加官晉爵と門柱にハ何公館と記し又國恩家慶とか惟文惟武とか書して以て榮とあすに似たり遂ハ有名なる城北の鎮海樓に登りホテルより携へたる行厨を開きて午餐を取る

鎮海樓ハ城の北隅越秀山と稱する丘陵の頂上にある五層閣あり實ハ廣東第一の高臺となす樓上ハ昇りて東南を俯觀すれば全都の大勢一眸の中に集るの快あり曾て千八百五十七年英佛同盟軍の廣東を陥るとや此丘陵に據りて全都を制したりと云ふ山を降りて城外ハ出で所謂死人之府と稱する死者を祭る寺院を看る院内に煉瓦造り廻廊狀の長屋數棟あり二三坪宛に區劃し

一室毎に寢棺一個を安置す其傍に家人に象りたる傀儡二三を置きて棺を守護せしむ奇習と云ふべし夫より販途に就き都下第一の高塔九層閣を一見す嚮導者曰く是より囚獄を案内すべしと先導するに任せて獄署に至れば獄吏入口の鎖鑰を解き扉を排して我一行を入らしむ余以爲らく此内別は監房ありて外部より見せしむるものならんと圖らざりき身の既に囚徒群居の監房中にあらんと忽ち囚人喧囂し我一行に向て煙草を強請す茲に至りて慄然案内者を叱し勿々戸を開かしめて外に出づ以て獄制の不完全なるを知るに足れり

夫より轎を急がして江流の近傍に出で廣州九邑會館を見る即ち廣東商人の會館なり構内切石及紋瓦を布詰め建築新しくして壯麗を極む直に江岸に赴くや則ち轎を捨て艇に移る艇を操るもの

二人一の婦一の啞なり流れ急にして舟行意の如くあらず啞手を振り眉を昂け巧に他船の舷に棹を打ちて逆流に抗し婦の全力を櫓に注ぎ進む

遂に珠江中流の一大奇觀たる烟花熱鬧の船市街に到る船の概ね二三層の樓閣を造り岸に沿て櫓比す宛然たる一大市街を河上に浮ぶ妓樓其多きを占む樓臺の外觀甚美ならずと雖も内部に金碧を施し朱欄を設け紫檀の榻銀臺の蠟相映發して華美を極む蓋し廣東市人の豪遊を試む處所謂花舫の稱あるもの是なり聞説く珠江江上春風秋雨歳を通じて常住するもの四十萬人大小の船數壹萬を下らずと多少誇張の嫌ひなきにあらずと雖も亦以て如何に江上の盛況殷賑なるかを知るに足る可し既に廣東府の大勢を周覽す時正に午後四時乘船期に迫る小艇を



馳て佛山號に乗り廣東を發す夜に入りて驟雨あり一時頃香港埠頭に着す夜深更なるを以て船中に假睡し拂曉上陸して香港ホテルに入る

因に一言す廣東府の支那に於ける外國貿易の率先地にして夙に百貨輻湊、民物殷富、人口百萬以上(或は二百萬と號す)を有する南清唯一の大都會たり四方平坦、江流八達の便に富み所謂沃野千里の稱ある廣東、廣西兩省の物産を集散するの中心市場たり

然れども一朝香港貿易の發達するや廣東貿易の香港に移りて又振はず目下輸出品として重要なるの獨り生糸の金額壹千萬兩以上に上るもの是なり

其製茶の如きに至りては遠く二百年前より此地を経て歐州に輸出せられ廣東茶の名聲籍々として四方に傳り一時旺盛を極む十

年以前に至る迄は猶千六百萬斤を海外に輸出せりと雖も世の變遷と共に比年衰頹の非運に陥り昨三十年の輸出高は僅々百三十拾四万九千九百斤に減少し茶商の轉業し茶園は荒廢に付するの慘狀を極めたりと

蓋し此の如き運命を來したる所以のもの、官吏の暴斂、粗製濫造の弊害、製産經濟の困難等一にして足らずと雖も其致命の最大原因を討ぬるときは畢竟錫蘭茶の爲めに販路を奪はれたるものなることを知らざるべからず元來廣東の紅茶は専ら英國を華主とするもの一朝英領錫蘭の茶業勃興するや廣東茶は其反比例を以て衰頹を蒙り今や全然英國市場より驅逐せられ如何に廣東人士固有の堅實と奮勵とを以てするも頹勢終に翻すべからざるの運命を呈せり余輩茶業に従事するもの廣東茶業の末路を看て慨然

として寒心し慄然として猛省せざる可けんや

八月廿八日 香港滞在 (晴天温九十二度)

午前九時ホテルを出て「ピーク、レールウェイ」停車場に至り索繩車に乗る此鐵道の一直線に布設するものにして機關を山上に備へ鋼線を以て一輛を捲き上げ一輛を捲き下すの装置なり其發車するや隣轆として進む登ると凡十町匂配急峻にして車体半の倒まに懸る恰も羽化して冲天に飛揚するの感あり五分時にして山上の停車場に達す

山嶺の則ち「ダイクトリヤ」峯頭にして山を平け岩を削り以て兵營別墅ホテル等壯麗なる大厦高樓を築く道路「コングリット」を用て堅め花崗石を以て排水の溝渠を設く最高峯に至る迄此の如し其經營に幾千の巨資を投じたるか殆んど想像の外なるべし勇を鼓

して最高峯に攀登すれば紳商ベリピヤス氏の莊園あり園内種々の動植物を看る更に船舶信號旗を立る絶頂に登る  
俯觀すれば香港中樞の市街の脚下に聚りて盛觀を極め港内殆んど十英方里の廣袤を有する海面の蒼々として其深さを示す朦朧巨艦の輻湊するもの殆んど百を以て數ふべく幾千万の小艇の木葉の如く浮ぶ況んや對岸九龍半島の沿岸に連綿たる船渠倉庫の歴々指顧すべく稠密なる市街の烟波の間に參差たり更に眼を放て周圍の大勢を觀れば則ち海を隔て峻峯東北より起り勢ひ西方に向て奔騰するもの、是れ支那大陸の連山にあらずや又南溟渺茫の間に島嶼碁布して我背面を擁護するが如き姿勢を保つは是れ香港をして東洋屈指の天險たらしむるものに非らずして何ぞ光景の秀麗なる形勢の要勝なるに加て十九世紀文明の人工を

極む蓋し斯の如き偉觀の天下罕に見る處ならんと一行坐ろに嗟嘆の聲を洩して更に山の南麓を俯瞰すれば乍ち濃霧浮動して脚下に起り觀望を妨ぐ是に於て山を降りホテルに歸る

此夜郵船會社三原支店長我一行を其社宅に招き清楚なる日本料理を饗せらる閑談時を移し月を踏で歸館す

八月廿九日 香港滞在 (晴天温九十二三度)

午前香港々長プール、エム、ラムセー氏を訪ひ質すに香港々灣の状況を以てし進で我横濱港の改良策に及ぶ

氏曰く不肖當港々長の職に在ること茲に十六年一回貴邦に遊ばんと欲して未だ其機會を得ず故に横濱港に對して卑見を呈するを能はざるを奈何せん而して當港の見らるゝ如く港内天然の深水なるのみならず高山港を圍繞して風波の來襲を遮る隨て防波

堤等の設備を要せざるの勿論地質硬堅なるを以て海岸埋没の恐れなけれは之が浚渫の必要を見ず大体の港状夫れ此の如くなるが故に從來港灣其物に對しては更に人工を加へたるをなし只港灣に伴ふ陸面の平地に乏しく不便尠なからざるを以て開港以來茲に五十六年巨資を投じ勞力を費し經營せりと雖も輓近人口の益々加ると共に愈狹隘を告ぐるの一事に至りては深く苦心する處なり云々茲に至りて余が聞かんと欲する目的を失ひ聊か失望の感なきにあらず依て市内の設備に關し一二の質問を試み辭して氏と別る

午後香港上海銀行本店に至り支配人ゼー、ジャクソン氏に面會し行内の模様を見んことを乞ふ氏快く承諾し直に先導して行務取扱の情況を縦覽せしめ次に金庫の裝置を見せしむ

分業 組織を以て事務を取扱ふ有様の敏捷なる諸般の規律整頓して設備の完全なる一見人をして感服の念を起さしむ況んや建築壯嚴にして規模宏大花崗石の巨材を用て堅牢を専らとするに於ておや若し夫れ營業の状況に至りてハ資本金一千万弗積立金八百万弗發行兌換券九百万弗當坐預り金壹億千六百万弗定期預金五千七百万弗株主配當金二割強なるを以て見るも如何に東洋の金融界に勢力を振ふかを知るに足る長坐して事務を妨げんとを恐れ則ち氏の好意を謝して歸館す

此夜正金銀行支店支配人長氏の招に依り余が一行支那料理店杏花樓に至り饗を受く

八月三十日 夜香港出發 (晴天酷暑九十六度)

午前郵船會社正金銀行三井物産等の各支店を歴訪して當地出發

の挨拶をなし佛國郵船會社代理店に就て出帆時刻を問ひしむれば午後六時なりと云ふ依て夫より「クイン、ストリート」の日用食料品の市場を見る構造ハ煉瓦三層にして「クイン」通と海岸通の双方より出入せしむる一大家屋なり下層ハ道路の下にあり石を布き水道を利用して青物市場となし二層を肉類の市場となす出入便宜にして構造完全なり市民爰に至れば立所に用を便するを得べし取て以て模範とするに足る

午後二三の來訪者に接し行李を理め四時頃ホテルを出で、棧橋に至る郵船會社三井物産の兩支店我一行の爲めに各小汽船を備て乗船の便宜を與へらる則ち之れに搭じて佛船ラウス號に投ず三原(郵船長)正金(幡生)三井(今村)領事代其他諸氏本船に來り送らる則ち客室に延て別盃を酌み滞在中の厚情を謝して袂を分つ

臺灣總督府技手藤江氏の歸途を厦門及福州に取るものなり我一  
行と玆に別れて猶香港に留る

ラウス號の解纜ハ夕六時の豫定なりしも石炭の積込抄取らずし  
て夜に入りて猶ほ錨を抜かず郵船としてハ聊か不都合なれども  
之れが爲に船中香港々内の夜景を目撃するを得たり試に其光景  
を説かんか

「ヴィクトリア」峯頭夜色既に加りて涼風徐ろに征衣を吹き來るや  
山腹七英里の間に連る全市街ハ其高さもなく低きもなく幾万の  
明窓一時に燈光を放ち來る又海岸より起りて山巔に亘る縦横の  
街燈ハ數百燭光の「アーックライト」を點じて爰に忽ち一大不夜城を  
現出す而して又港内無數の船燈ハ色漸く鮮となりて滿目燦爛た  
り是等の燈火ハ悉く水に落て相映發し相搖曳し或ハ金鱗となり

或ハ銀波となり光彩陸離美の神髓を闘ハす更に頭を回らして九  
龍の沿岸を望めハ燈光隱見して遠く連り近く照らして我を送る  
ものゝ如く眺望奇絶快絶恍乎として時の移るを知らず遂に十二  
時頃に至り船体一轉進行を始む船港外に出れば月獨り海峽を照  
して旅情を慰む左舷近く回旋燈を望て渺茫たる洋中に入る

### 香港瞥見録

香港ハ所謂自由貿易港あり其貨物の出入ハ付てハ固より正確な  
る統計の徴すべきものなしと雖ども一ヶ年間輸出入の概算五億  
弗の巨額ハ上り汽船及帆船等外國に對して出入するもの實ハ五  
万艘内外（支那形帆船を加ふ）其噸數壹千四百万噸の間に在り之れを倫敦  
出入船舶噸數ハ比すれば凡八拾万噸を超過し「リーパープール」港

に越るに凡百万噸なりと云ふ以て其盛況の一斑を知るべし。香港の元來南清僻陬の一孤島にして土地に物産あるにあらす製造工業に地の利あるにあらす其貿易の如きに至りても消費地若くは生産地として更に看るべきものなし試に今本邦と香港間の貿易に徴するも香港其地の需要品として本邦より輸出するもの石炭六拾万噸を外にして殆んど之れなしと云ふも可なり然るに我邦より香港に向て輸出する貨物の凡二千万圓にして又香港より輸入するもの凡一千万圓の多きを占む是れ一見甚奇觀なるが如しと雖も香港の香港たる所以の則ち之にあり何となれば香港の殷富なる南清大陸の咽喉たると同時に歐亞貿易の連絡地にして又濠州及南洋諸島海峽殖民地等に對する貨物集散の要衝に當ればなり更に語を換て言へば香港の世界貿易品の一

大配送場にして又東南兩洋に於ける船舶往來の中央「ステーション」なればなり然らば則ち香港をして其此に至らしめたる所以のもの何ぞや曰く港灣の天然的良港なること其一なり海外萬國に對する地形の要衝に位すること其二なり世界航海業の覇權を握る英國の領土なること其三なり東亞及米國濠洲等に於ける富源開發の時運に際會したること其四なり自由貿易港として入港船舶に便宜を與ふること其五なり此五大原因の香港をして宇内有數の商港たらしめ船舶輻湊の中央「ステーション」たらしめしに外からず

開港以來茲に五十六年若し夫れ其當初に遡りて香港經營の跡を討るときは余輩をして殆んど驚嘆に堪へざらしむるものあり今一例を舉れば香港島の所謂瘴烟蠻雨絶海の孤島にして素より人

の住み得べき地にあらざりしことを知らざるべからず假令其港灣の天然の良港にして大船巨舶を碇泊せしむるに足りしと云へ山に樹木あるにあらず飲用水あるにあらず石炭あるにあらず勞力を供する賤民すら容易に來らざりし處なり況んや慘憺たる瘴癘の氣の万里雄心を抱て來住したる英國男兒幾多の生命を失ひしめたるおや而して其經營漸く緒に就きたる後と雖ども或の食料品の欠乏を告げ或の慄悍なる海賊の來襲を蒙る等其他有らゆる困難に遭遇したるに拘らず由來英人の執拗にして剛健なる特性を有するが故に百難を排除して以て今日の香港をなせり説て爰に至れば其繁榮の決して偶然に在らざることを知るに足る余輩實業者たるもの豈に猛省一番せざるべけんや

余香港に滞在するに僅々一週日に過ぎず其間一日を廣東の遊覽

に費す素より調査の結果として特に記すべきものなしと雖ども只所謂瞥見したる處の所感を述べ道路の潔麗にして深く修繕に意を用るの一事と港内に於ける船舶碇繋の規律能く行へることと是なり香港市街の道路の中央を「セメント」割栗石混合の敲きとなし兩側の人道の悉く御影石を敷く坦として砥の如く些細の破損を見ず甍に市街に於て此の如きのみならず山上山下苟も人の通行すべき道路に到る處皆然らざるのなし而して地形傾斜面の場所の全部御影石を布き又完全なる排水溝を設く故に大雨沛然として屢々到るも更に靴を汚す等の不快なく往來交通の便を極む聞く一ヶ年間道路の修繕其他市内の体裁を維持する經費のみを以てするも百万弗を投ずると云ふ我東京及横濱の如き一の帝國の首府にして一の貿易場として全國を代表する應接地なる

たも拘りならず雨天に際すれば道路泥濘を極め殆んど歩行すべからざるが如き觀あるに至りては英國の殖民地たる香港に對して聊か耻づべき處ならずや

又香港々内の區域は延長十一英里にして幅員一英里より五六英里に亘り面積拾英方里を有し萬國の艦隊を容るゝも差支なしと云ふ而かも港内取締りの能く行はるゝ一事に至りては多年の習慣より胚胎するといふ云へ一見人をして敬服せしむるに足る假令へは東方の港口へ軍艦の碇泊場とし中央の區へ商船繫留場となす毫も區域を亂るゝを許さず浮標に一一番號を施し何郵船の何號何會社の汽船の何號と夫々港長指定の位置に就きて投錨し整々として列る去れば一時に幾十百艘の大船巨船出入するも更に港内の混雜を來さざるのみならず荷役に便益を與へ又船舶に

危険の恐なし而して此等碇泊船に對する交通の一大機關たる小汽船等に至りても棧橋繫留の制限ありて五分間より永く繫留するを許さず故に幾百千の小汽船來往絶間なしと雖ども更に不都合のなき

今や我横濱港に於ても港務局を置かれ此等港内の取締りを施行せらるゝに至れり故に聊か一言して港制以外に良習慣を造り出さんことを希望して止まざるなり

八月卅一日 航海中 (好晴海上平穩暑氣強し)

夜來天氣好く海上頗る穩なり午後遙に福建省の沿岸を望む船中横濱在留の外商ユモリ氏に會す

九月一日 同上 (晴天前日に同じ)

午前臺灣海峡を通過して東海に入る此日内地の所謂二百十日な



れども天清く海平かにして厄日なるを知らず

ヲウス號の設備完全、客室華麗にして待遇鄭重を極め、飲食又善美を盡す等、乗客の歡心を迎ふるを以て本領とする佛國郵船のとなれば船中にありて始て愉快を感じ、夜に入りて少しく風起る

九月二日 上海着 (晴天暑氣)

朝來海水漸次混濁となり、左舷近く島嶼の連るを見る憶ふに舟山列島の附近ならん、十一時頃有名なる楊子江口に入る江口、茫漠として江海の界を辨すべからず、濁流滔々天際に連り、只葦蘆の繁茂する干洲の横へるを看るのみ

午後一時頃船吳淞に投錨す(吳淞ハ上海を距る十三英里、楊子江の本流と上潮あり、吳淞淺瀬と稱す、大船ハ滿潮を待て上海ヨ溯るを常とす)小瀛船來り迎ふ、直に之れに移りて行く、凡五六哩、船上海に近くや先づ眼に映するものハ右岸に連亘す

る幾多の紡織會社なり、左岸ハ船渠、其他工場あり、船舶の中流に繋るもの來往するもの漸く繁を加ふ、進で上海港内に至れば大船巨舶の河中に碇泊するもの兩岸の棧橋に横付するもの等、都て百を超ゆるなるべく支那形帆船に至りてハ幾百千に上るか勝て數ふべからず、帆檣林立とい眞に此等の實況を形容するの語なるべし、三時半頃佛蘭西租界の棧橋より上陸す、正金銀行支店、支配人西卷豊佐久氏、其他の人々茲に出迎へらる、直に馬車を驅りて米租界(虹口)の「ホテル、アストル、ハッス」に入る

此夜英租界を逍遙す、英租界ハ上海居留地の中央に位し、最盛最美の區なり、北ハ余が投宿したる「ホテル」の前を流る、蘇州江を堺とし、南ハ佛租界に隣す、東西に通ずる大街六條あり、北京路、南京路、一名太馬路、九江路、二馬路、漢口路、三馬路、福州路、四馬路、廣東路、五馬

路是なり就中太馬路の商業殷盛を極め車馬絡繹行人織るが如し又南北を貫通する大路六條あり四川路河西路河東路福建路浙江路廣西路と云ひ佛租界に亘る其東端則ち黃浦江岸「ボンド」を以て貿易上最も樞要の地位となす會社銀行等の著名なるもの概して茲に在り市區整然屋宇壯麗を極め道路平坦にして完美あり先づ所謂ボンド通りを南に行く其左側を公園と名す規模甚大ならずと雖も園内綠樹を植へ花卉を交へ嫩芝甍を敷くが如し三面江流に臨む夜景最も美觀を呈す園の中央に音樂堂を設く時に奏樂囀々として起り電燈燦然として白晝を欺く貴女紳士花の如く其周圍に集りて涼を納る此園北京の圓明園に象りしを以て稱して圓明園と云ふ其經費の居留人一般に賦課し娛樂を共にすと雖ども獨り支那人の唯費用を負担するの義務ありて園内に入るを

許されずと夫より大路を縦横して遂に四馬路に至る

四馬路の烟華熱沓の市街にして酒樓茶棧と云ふ及寄席劇場等あり青蓮閣滬江第一樓杯稱する茶棧の最も壯大あり市民群集實に肩摩轂擊の狀あり或は意氣揚々として輕車を馳する支那人あり或は盛裝を凝したる佳人(支那藝妓)を乗せたる轎子の東西に馳せ違ふあり喧々擾々目眩し耳聾せんとす蓋し四馬路の繁華の上海に冠たると同時に支那に冠たるものならん若し支那人をして之を謂はしめし腰携萬金騎鶴遊揚州の理想を現實ならしむるものか夜十時頃ホテルに返る

九月三日 上海滯在夜漢口に向て發す (晴天甚暑)

午前九時馬車を驅て先づ領事館を訪ふ小田切領事暇朝中不在かり領事代理諸井六郎氏に面會す夫より郵船會社支店に副支配人

伊吹山徳司氏を正金銀行支店に西巻豊佐久氏を三井物産支店に小室三吉氏等を歴訪して販館す

午後正金銀行支店員中村氏の案内を以て城外の愚園及長園を見る愚園は支那固有の体裁と其趣味を表するもの長園は歐洲の風を模擬したる設計なり兩園とも來遊するもの多く頗る雜沓を極む販途三井物産支店に小室氏を訪ひ談漢口に於ける磚茶製造の事に及ぶ小室氏が漢口の露園茶商を知る則ち之れに宛てて紹介す茲に於て余が當初より期したる磚茶製造場を見るの機會を得たるを喜び俄かに漢口に向て出發するに決し此夜我が一行太古輪船公司(バターフィールド)の漢口通ひ汽船都陽號トウヤウに搭して上海を發す西巻小室伊吹山諸井中村青田其他の諸氏本船に來り送らる此行従僕一名を僦ふ名の阿華日本語を能くす十二時過に至り船

纜を解く夜深きを以て直に寢室に入る

九月四日 長江航行中 (晴天暑氣強し)

終日濁流漫々たる長江を溯る兩岸は則ち廣野茫々たる大陸なり眼に映ずるもの堤上の楊樹にあらされば葦蘆の限りなく岸邊に斷續するあるのみ人烟稀薄孤帆遠く影を曳て天際に入る夜十時頃鎮江に寄港す江上數多の紅燈を流し船を浮べ鐘鼓を打て頗る賑かなり想ふに我河施餓鬼の如きものか夜暗くして市街の光景を望むに由なし一時頃發船す

鎮江は江蘇省に屬し上海上流百五十英里長江の南岸に沿ひ大運河の之れに會流する處にあり千八百五十八年天津條約により開港せられたるものとす地位揚子江沿岸の樞要にあり一時は貿易の中心たらんとするの望ありしと雖ども漢口の開くるに及んで

其影響を蒙り大に其貿易額を減殺せられたりと云ふ輸出品の重かるものゝ米、麥、絹織物等なり

九月五日 長江航行中 (晴天暑氣)

午前九時有名なる江寧府を通過す船江の中流に止ると僅に三十分に於て發す

江寧府の明の舊都南京城にして鎮江を距ると四拾五英里城壁丘陵に據りて連る延長廿二哩規模雄大船中より之れを望めば城壁蜿々として長蛇の如し聞説く明朝歴代の帝王茲に都せしを以て城内建築の美燦然人目を奪ひ堂塔高く參差として雲表に聳へ實に天下の壯觀を極めしも彼の長髮賊の一回蹂躪する處とあるや著名なる建築物の悉く兵燹に罹りて又舊觀を止めず嘗て名を世界に博せし磁製塔の如き其形八面八稜九層を重ね外面を覆ふ

に五彩の磁板を以て遠く之れを望めば彩霞の變くが如き奇觀を呈せり此塔の明の成祖實に十九年の星霜を経て落成せしもの今の則ち纔かに基礎を遺すに過ぎずと余輩明人にあらざるも今蕭條たる此舊都を臨んで豈に一片懷古の情あからざらんや南京の未だ外國に對して廣く貿易を開かず故に楊子江往來の船舶の只船客を乗降せしむる爲め停るに過ぎず江に臨んで砲臺あり又支那砲艦二三艘の碇泊するを見る

午後三時船蕪湖に到り停る上海より余の一行と同乗したる佛國宣教師二名茲に上陸す彼等の支那服を着け辮髪を結ぶと雖も其容貌純然たる歐州的なれば一見頗る奇なり長者とも云ふべき一人の老教師曰余は三十年來支那に在りて布教に従事すと熱心想ふべし

蕪湖の安徽省に屬し上海上流二百六十英里江の左岸にあり千八百七十七年開港せられたるものにして内地に通ずる水利の便に富むを以て茶生糸等の集るもの少なからず商業殷盛にして將來有望なる互市場なり又市街の外觀甚整美にして岡陵を據る陵上洋館の清楚なる建築あるを看る

四時過船纜を解く

九月六日 長江航行中

(晴又曇暑強し)

午前六時半頃北岸に堂塔巍然市街稠密繞すに城壁を以てする都會を臨む安徽省の首府安慶なりと云ふ  
午後三時頃左舷に鄱陽湖を臨んで走る湖水碧澄にして周圍の山清く湖中畫くが如き島嶼あり又湖を隔てて遙に白聖綠樹の間に連る市街を見る濁水横流兩岸只茫漠たる楊子江の航行に飽きたる

余輩も茲に至りて頗る眼を娛めり鄱陽の風光の長江沿岸中絶佳を以て稱せらるゝのみならず歴史上又趣味あるの地なり彼の三國史に於ける吳將周瑜が此湖中に於て水軍を練り以て曹操の南侵に備へたる杯に我人口に膾炙する處なるべし又聞く此湖水の周圍に紅綠茶の生産地として著名なる所なりと  
午後四時頃九江に寄港す繫留一時間餘なりと云ふ依て上陸して市街を一瞥す居留地の江に沿て設く洋館數十軒あり茶商館其多きを占む露商順豐洋行の磚茶製造所あるを見る支那街の狹隘不潔看るに足らず勿々本船に返る

九江の上海を去ること四百五十二英里漢口の下流八十七英里江西省の咽喉たり物産の紅綠茶其首位を占む之れに次ぐものの紙麻なり又景德鎮に於ける有名なる陶器製造所の製出に係る陶器

の輸出港たり

百十八

此地を長江を隔てて潯陽江と相對し南の方四里に蘆山の聳ゆるあり昔者白樂天か琵琶行を作り水滸傳の豪傑宗江か江頭の酒樓に登り蘆花洲裡一扁舟と放吟せしの地と相去る甚遠からず亦以て風流騷客が一顧の價值ある所となす六時頃船浮棧橋を離れて西に向て馳す

九月七日 漢口着 (晴天炎暑)

早朝舷に出でて望めば平野丘陵交々現われ來り人烟又斷續す牧牛の江岸の水邊に悠遊自適するを看る而して有名なる赤壁の此邊より漢口に至るの間にあり舷頭に立て所謂斷崖千尺の偉觀を見んと欲するも遂に得ず只低き岡陵の江に沿ひ赤土削るが如き處ありしのみ蓋し星移り物變り今日の如き平凡の眺望と變せし

ものか夫れとも文士徒らに奇を衒ひしものか江山答へず只濁水の奔流して今も昔も依然變らざるあるのみ

午前十一時漢口に着す直に上陸して「ホテル、メッロポール」に入る午後一時頃ホテルを出でて先づ居留地の露商阜昌洋行(モルカノフ、ペチヤノフ)に至り刺を通じ紹介状を出して磚茶製造場の縦覽を望む支配人某氏出でて一行を應接間に導く則ち當地茶業上の景況を質し對談すると暫時館員「コツチョフ」氏の案内によりて先づ紅磚茶製造場に至り其實況を看る夫より會社所有の植物園内を通過して綠磚製造場器具製作場荷作場乾燥室等を順次周覽す此等の製造所の居留地の中央數千坪の面積を占め道路を夾んで數棟を列ぬ規模頗る宏大なり家屋の煉瓦構造にして我横濱神戸等の再製場と格別異なるとなしと雖も蒸氣器械を利用すると到

百十九

らざるなく大煙突空を摩して聳ゆるの光景に至りての一見して  
 其事業の甚盛なるを知るに足る  
 偕て紅磚茶製造の方法の場内に壓搾器械數臺を配置し其傍に  
 蒸流を充すべき爐の如きものを装置す而して強烈なる蒸氣の「  
 イプ」を傳て此爐中に充滿し湯氣騰々として上るを見る  
 先づ紅茶の粉末を適度に麻布に入れて此蒸氣濛々たる中に投ず  
 ること凡壹分時忽ち粉茶の熱氣と水分とを汲收して粘着力を起  
 す茲に於て直に之れを引出して框形（形の堅木製にして底及蓋に「蘭字」  
 の彫刻を施し磚茶に商標を印す）に投じ締木を打つが否や鉄製壓搾器に移して框中の茶を壓迫す  
 るなり其間僅かに二三分其手廻しの迅速なるを殆んど熟視する  
 に暇あらず其職工の皆支那人にして頗る熟練なり要するに磚茶  
 製造の順序の甚簡易なるものにして専ら器械力を用ひ只強熱を

る蒸氣によりて茶葉に粘着力を與へ堅固ある框形に容れて強大  
 ある壓力を加ふるに過ぎざるが如し而して前述の如く壓搾した  
 るものゝ框形に入れたる儘置くと二三時間以上にして之れを解  
 くとき所謂磚の如き固結体となるを見るべし茲に於て磚茶を  
 乾燥室に移し空氣の疏通すべき様積累ねて一週間を置くと云ふ  
 又乾燥室に蒸流鐵管を通じて室内に適度の熱度を與ふるの装  
 置あり

「ダブレット」と稱する小包紅磚茶を製造するを見る其形状析木の  
 如く量凡四半斤の小塊にして良質の粉末を用ひ一個毎に鉛及紙  
 を以て鄭寧に包装す近年の新按に係るものなりと云ふ  
 綠磚茶製法の紅磚茶と同一なり其原料の番茶又我川柳或は粗  
 製荒茶の如き粗茶を用ひ只紅磚と異なる點は茶葉形状の儘團結せ

しむるに在り其價の一担五兩を出せずと云へり

器具製作場の磚茶製造に使用する蒸流の餘力を以て器械を運轉せしめ磚茶縮木框板を始め其他金具に至る迄一切の器具を製作せり又荷造り場の専ら磚茶個々の包装を施す工場なり外部の荷造りの粗末なる竹製の籃を以て包む一捆の普通六十四塊入(一塊一斤)とす綠磚の一塊の量凡二斤半なれば一捆三十二塊入となすと云ふ畧は周覽の上一禮を述て「コツネッオフ」氏に別る

夫より順豐洋行(露商トクマコ)に至り支配人マリジン氏を訪ふ氏快く我一行を迎へ食堂に延て茶菓を饗す茶の則ち支那紅茶の佳品にして露國風の喫茶法を用ゆ暫く對談の上取扱ふ處の製茶を一見せんことを望む氏則ち拜見場に導きて支那紅茶を見せしむ祈門、宜昌、寧州、安化、長壽、洞庄、崇陽、禮庄、禮陵、通山、芸溪、聶市等産地の銘を

付して排列するもの其數六十種程あり湯を注ぎ順次香味を試む寧州一番芽と稱するもの最も優等にして先に食堂に於て喫したる茶と同一の舌味なり余曰此茶の食堂に於て與へられたるものと同一の品ならずやと彼れ驚て曰く誠に然り老實の當業家にあらずんば安んず之れを鑑別するを得んやと茲に於て余の横濱の茶業者なる旨を告ぐ彼れ笑て曰く正に左もあらんと夫より談話一層興に入る(此寧州茶、寧州の江西省の地名の時價六十五兩なりと云ふ二番茶六十兩其他の茶の五十兩以下廿五兩迄一々時價を示す)而して彼更に「ヨング、ハイソン」(安徽新綠茶數種を出して示す我九州嬉野茶と殆んど其形狀を等ふするものあり品質を評し景況を問ひ將に辭せんとす彼曰く余が製磚茶場の他よ比して聊か進歩的器具を用ゆるものなり一見せられては如何と蓋し磚茶製造の阜昌洋行と同一のものならんと思惟し縦覽を求めざりしよよる



是は於て其好意を謝し則ち「マリソン」氏の案内を以て江岸三四町を東に距る製造場に至る。製造場の規模は阜昌洋行より比し稍少ありと雖も器具并に器械の整頓緻密なる點に至りては果して自負する處の如し殊に磚茶製造用の框形の全部鋼鐵製にして其嵌め板の如きも鋼板を用ゆ製造の方法は阜昌洋行に於て見し處と異なる點なしと雖も其長所とする點を舉れば框形の鋼製なるを以て磚茶の質を密やかにし光澤を出すを其一なり締めり工合の堅實なること其二なり従來一千人の職工人夫を要したれども此器械を用てより七百五十人に減じて而かも製造高を増し得るの利益其三なりと云へり乾燥場器具製作場等を巡見す器具は則ち悉く鐵製なれば其製作場の宛然たる鍛冶工場なり又蒸氣の餘力を以て製氷器械を運轉し盛

は氷を製出せり蓋し漢口の地たる支那内地に於て比類なき酷熱の地なれば氷を要すると少なからず故に自家用に供したる外の販賣するものなりと阜昌洋行に於ても製氷器あるを見たり遂に辭して旅宿を暇る

漢口の良水は乏しき地なり故に磚茶製造場の如き多量の水を使用するものには構内に掘抜井の如き深き穴を穿ち揚子江の河底より鐵管を引き來り蒸氣ポンプを以て之れを引上げ更に水濾器械を通過せしめて瀘罐に配送するの装置となす其方法至れりと云ふべし而して一般の市民は長江の濁水を荷担して運び來り混濁を沈澱せしめて飲用に供す我一行の投宿したる「ホテル」の如き又此の如し殊に炎暑燬くが如き地なれば其水の恰も温湯の熱度あり依て余は水浴を取りて纔に垢汗を濯ぎたりき

九月八日 武昌及漢陽に遊ぶ (晴天酷暑九十五度)

百二十六

此日武昌及漢陽に遊べんと欲し小汽船を僦ひ午前八時漢口の埠頭を發す「ホテル」の支配人の本邦人にして大原某と云ふ則ち同氏を案内者として伴ふ對岸に至れば湖北織布官局武昌紡紗官局等張之洞氏の創設したる紡績官業の大工場連るを見る又有名なる黃鶴樓の江上より望むことを得たりと雖も數年前祝融の災に罹りてより又舊時の如き偉觀なしと云ふ紡紗官局の傍に上陸し人力車を雇て城内を縦横に貫通し遂に武備學堂我陸軍士官學校の如きものに至り我陸軍大尉小原武慶氏を訪ふ氏の張總督の招聘に依り本邦の兵學を講ずる爲め今春以來茲に在り氏曰く近來張總督の頗る我日本に對して好情を表し又銳意泰西文明の長を取りて以て清國の積弊匡濟に熱中せらる殊に教育の如き兵制

の如き我日本の制度に重きを措かるゝに至り今や數十名の學生を拔擢して東京に留學せしめんとす是れ豈に同文同人種として夙に密接の關係を有する兩國の爲めに賀すべきことならずやと

余日清兩國の地形上固より輔車唇齒の關係を保つ況んや歐洲の勢力日に月に東漸するの今日兩帝國の提携扶持すべき多々なるをや此秋に方りて君兵學獻替の重任に膺る希くは兩國將來の爲め幸に自愛せられよ茶を喫して則ち袂を分つ夫より又城内に入り湖南會館を見る館門に題して曰く大江東去吾道南來會館と並びて曾文正公の祠あり曾文正公との清國近代の豪傑曾國藩の諡號なり國藩は湖南より出づ夙に實學に志して經國濟民の木鐸とあり又

百二十七

髮賊の亂を戡定す其功赫々後世の仰ぐ處祠の正面に特筆大書して曰く皇清誥授光祿大夫英武殿大學士一等毅勇侯贈大傅曾文正公之神位と境内高燥の地にして眼下に武昌全都を望み汪洋たる長江の都の北を繞りて東に流れ漢口及漢陽の市街の江を隔てて指顧の間にあり廟祠宏壯なれども保存に意を用ひざるが如き觀あるの欠點あり祠前に一拜して門を出づ

自強學堂外國語學校に至り日本語教師柳原又熊氏を訪ふ氏の案内よりて教堂を見る教堂の一邦語毎に一堂を設く五教堂あり東文堂(日本)俄文堂(露國)法文堂(佛國)魯文堂(獨逸)英文堂(英國)是なり一邦語科の學生定員を三十人となす目下各科共滿員あり殊に日本語科を學べんとするもの増加の傾向ありと云ふ生徒の概ね官吏及商人の子弟にして普通支那學を修めたる者なり學費及食料

とも一切官給にして校内に寄宿せしむ柳原教師に對し國家の爲め健康を祈りて分る

夫より江岸に出でて再び小汽船に移り船中に於て午餐を取り北岸漢陽に渡り大別山の麓に上陸す山上禹王廟あり江に臨み晴川閣聳ゆ其傍に鐵道あり則ち有名なる製鐵局專用のものなり線路を傳て局に至り一見を乞ふ局員某快く諾し先導して場内を看せしむ先づ「エレベートル」によりて熔解機關の上部數十尺の高さに登る伏瞰して場内を一目すべし其下に數個の大坩堝を裝置す猛火焰々近くべからず其傍を鑄造場となす溝渠の如き模型を設け「レール」其他鐵道用鐵材を鑄るを看る更に構内の北部に進めば仕揚げ工場あり或は熱氣白烟を吐く「レール」を排列して鐵槌を加ふるあり或は猛烈なる火爐に鐵器を投じて陶冶するあり場内の温

度華氏百二三十度なるべし流汗眼中に入り滿身の脂汗の洋服の外部に迸出す眩み神鈍くかりて永く留るに堪へず夫より其隣地にある槍礮器機局に至り刺を通じて縦覽を望む待つこと暫時總辨沈錫周氏出來り先導して先づ小銃製作の實況を看せしめ次に大砲の製造場に導く小銃の「モゼール」式五連發にして砲の山砲及野戰砲なり工場一巡の上事務室に休憩す沈總辨の技手をして連發銃發射の工合を見せしむ精巧よしして銃身軽く發射又速迅なり時に器械運轉の響耳を聳する許にして熱氣滿身の血を沸し脂を絞るが如し遂に謝して構内を出づ沈氏局の門前に送り來り官邸に於て茶を供せんと云ふ深く好意を謝し固辭して「ホテル」に返る

聞く漢陽の鐵製場の張之洞氏の計營する處にして七年前の創立に係り起業費九百萬兩を投じたりと云ふ余輩素人眼を以てするも其規模及設備の宏大にして有ゆる文明的諸機關を應用するを見るに及んで豈に感服せざるを得んや而して鐵の原料の湖北湖南の鑛山に採りて外國の供給を仰がず専ら武器の獨立を計る目的なりと云ふに至りては何ぞ其抱負の遠大にして着眼の高尙なる、勿論鍊鐵に要する第一の材料たる「コークス」の如きは甚缺乏にして事業の擴張に苦心する由なれども兎にも角にも荒鐵を製鍊するのみならず本邦に於て未だ曾て其製出を試みたることなき廣軌鐵道の「レール」及材料等を現に製造しつつあるに至りては豈に一驚を喫せざるを得んや東洋先進國を以て自負し清國の蒙昧を嗤ふもの亦退て深思一番せざるべけんや製鐵場并に銃砲製作廠の技師の獨逸及白耳義人なりと又目下製

出しつゝある「レール」の彼の天津より漢口に布設せんとする蘆漢  
鐵道用品なりと聞く

午後漢字日報主幹岡幸七郎氏來訪す氏の肥前平戸の人此地に於  
て漢字日報を發兌し以て大に文明的思想を吹鼓せんとす其志や  
壯んなりと云ふべし

此日炎暑九十五六度夜に入りて猶九十二三度を下らず風死して  
涼を取るの方法なし臺灣及香港に於ても未だ曾て覺へざる處の  
酷熱なり市民概ね屋上に出で夜を明かし苦力の如きもの皆  
路傍に臥す終夜寢苦しくして夢遂に平かなる能はざりし

九月九日 漢口滯在夜航の途に就く (晴酷暑温九十四五度)

此日我居留地として撰定せられたる地を一見せんと欲し午前九  
時「ホテル」を出て城外凡一哩を東に距りたる日本居留地に到る

其地位の長江に沿ふと雖も漢口中樞の市街を去ると我一里許  
交通不便にして貿易を營むに適せず又此邊の揮發油貯藏場寸燐  
製造場等危険物の所在地なり只將來に對し聊か希望を屬すべき  
點の蘆漢鐵道の停車場附近なるの一事あるのみ

午後大坂の漆商福島豐太郎氏來り訪ふ氏の此地に滯留して支那  
漆を本邦に輸入するものなり蓋し支那漆の漢口を以て輻湊の市  
場とすればなり支那漆輸入の利害に付ての近來當業者間に議論  
沸騰せり氏此事に就て説く處あり要するに支那漆を全然排斥せ  
んとするも云ふべくして行ゆるべからざるをなれば混合漆を嚴  
禁するを可とす而して本邦に於ける支那漆輸入商の大坂に四名  
あるのみなれば此四名に一致せば如何様にも弊害を匡正する  
を得べし畢竟支那漆の其本質粗惡あるにあらすして上海其他中

間の仲買之に粗製品を混じ信用を失す日本漆器の聲價を保持せんと欲せば須く混合漆の輸入を取締るの必要を看る云々  
漢口に於て猶見るべきものなきにあらざると雖も炎暑酷烈よしして外出に便ならず且返朝の期日迫れるを以て此夜上海に向ひ舩航の途に就くことに決定し午後八時郵陽號に乗る岡、福島、大原等の諸氏見送り來る十時船解纜す

## 漢口瞥見録

漢口の人口八拾万湖北省漢江の楊子江に注ぐ所にあり上海を距ると六百餘英里支那中原の要衝なり南へ長江を控へ武昌に對し西へ漢水を距て漢陽に連る三都宛然鼎立の勢をなす地形平坦にして水路四通八達の便あり其前を流ると楊子江を遡れば四川

の沃土に入り之れを下れば安徽、江蘇、浙江に至る更に漢水を北上すれば陝、甘の兩省に達し又河南に通ず鄱陽湖に入れれば江西の州郡眼中にあり洞庭湖より湖南の水脈を派れば遠く廣西、雲、貴の諸省に達すべし支那内地の水運半は漢口に由ると云ふも過言よあらざるなり

漢口の夫れ如此樞要の地位にありと雖も其貿易の開港の當初外人の豫想したるが如く未だ著大なる發達を見ず輸入品の綿糸、綿織物、阿片、砂糖、石油等其重なるものに屬し總額我三千万圓内外を出せず又輸出品の製茶を以て首位となす其輸出金額我貳千三四百万圓に上り漢口輸出總金額の實に八割程を占め支那全國輸出茶の殆んど一半を占む故に漢口貿易の消長の製茶によると云ふも不可なし而して茶の季節は我日本と同じく五六七月の三ヶ

月間を以て最も盛となす去れハ此季節に至れハ内外の商估四方より來集して賣買取引に従事し船舶ハ茶荷物搭載の爲め輻湊するの盛況を呈すと云ふ

紅茶の生産地ハ江西、湖北、湖南、安徽の諸省を重なるものとす就中江西省の寧州茶、安徽省の祈門茶ハ優等を以て稱せらる又綠茶ハ安徽、江西の兩省より専ら産出す殊に江西省の鄱陽湖附近より産する綠茶ハ佳良なるが如し

紅茶及磚茶ハ専ら露本國並に西比利亞に輸出せられ綠茶ハ概して米國其需要地たり故に漢口の製茶貿易ハ廣東若くハ福州の如く印度錫蘭紅茶の爲めに著大なる影響を受けずと雖ども間接に其刺撃を蒙り紅茶の如きハ近來相場低落し輸出額も昨年に至りてハ大に減少したり獨り磚茶ハ漸次販路擴張の趨勢にして其

輸出高も年々増進の傾ありと云ふ

漢口在留の外國茶商ハ左の如し

順豐洋行、阜昌洋行、百昌洋行、新泰洋行（以上露商紅茶を取扱ひ又磚茶製造所を有す）

天裕洋行、太平洋洋行、怡和洋行、華昌洋行、河北洋行、太古洋行、祥泰洋行、履泰洋行、杜德洋行、協和洋行、寶順洋行、隆泰洋行（以上英商紅綠茶を取扱ふ）

又支那人の茶棧ハ鉅興隆、厚生祥、春華祥、謙順安、信昌隆、德和祥、協和慶、廣裕源、洪記、正泰祥、合興昌、永泰源等其重なるものなり

漢口より露國に輸送する茶荷物ハ蘇士<sup>スエズ</sup>廻り「オデッサ」港に仕向るものと天津、北京を経て蒙古に入り露清國境の恰克圖<sup>チヤクト</sup>に達し更には是より歐州露西亞に向ふものと東部西比利亞に入る等海陸二途あり

り而して陸路を取るもの早くも七八ヶ月間の日敷を費し遲き  
 の一ヶ年を経過す之れに反し海路「オデッサ」に向ふもの概ね五十  
 日内外を要するに過ぎず其運賃の海路送り壹露斤我百〇九匁に  
 付拾三哥我凡拾錢五厘陸路送り四拾五哥我凡三拾六錢の割合な  
 り然るに海路よりするもの輸入税一露斤に對し七拾九哥を徴  
 せらるゝに拘らず陸路の輸入税の四十九哥なれば畢竟するに需  
 要地に達する計算の陸路の海路より上ると三哥の差あるのみ而  
 して近年露國政府の彼の義勇艦隊を獎勵保護して大に歐亞交通  
 の便を啓きしより漢口に於ける紅茶磚茶輸送の如きも海路を取  
 るもの年々増加するに反し陸路の輸送の著しく減少したりと云  
 ふ

漢口貿易の將來の頗る注目すべき價值あるべし何となれば漢口

の支那内地水運の要衝にして英露兩國が貿易上に將た政畧上に  
 重きを措く處の競争點なればなり若し夫れ北の方天津に起り富  
 饒なる大陸の中原を横斷して漢口に達する蘆漢鐵道にして成る  
 あらんか漢口の繁榮の蓋し今日に倍徒するならん現に利益に銳  
 敏なる各外商の争て漢口城外の土地を買收し以て機會の到るを  
 待つゝの狀あり然るに蘆漢鐵道の表面「白耳義」シンジゲート」により  
 て着手せられたりと雖も其内實の露國の關與する處なるを以  
 て英國の反對の地位に立て畫策を廻らし列國又自ら見る所を異  
 にす果して然らば北京朝廷の變動と列國が支那に對する政畧上  
 の態度如何によりて蘆漢鐵道の大工事の或は中止せられ或は迅  
 速に布設せらるゝ杯の奇觀なしと云ふべからず而して蘆漢鐵道  
 成功の曉は漢口市場を一變せしむると同時に清國の形勢に一大



變遷を惹起すの導火線となるなきを保せず是れ豈に余輩本邦人の注目すべき處ならずや

九月十日 長江舩航中 (晴、夕、九江に於て雷雨あり)

午前九時半九江に寄港す製茶、麻、紙等の積荷多く豫定の碇泊時間を超るる半日夜七時頃に至り漸く解纜す

楊子江沿岸の開港場則ち漢口、九江、蕪湖、鎮江等到處江岸に倉船造り棧橋の設ありて長江往來の漁船、皆此倉船に横付し船客及貨物の揚卸を便にす積込荷物、漁船の來着を計りて該船艙内に豫め積込置き陸揚の荷物、又此に仮揚して漁船に立ち去るの便利あるを看る而して此倉船は各漁船會社の設備するものにして長江の如き沿岸貿易場に屢短時間の寄港をなすには頗る簡便の

設備なり憶ふに本邦の沿海に於ても如此設備を要する港灣あるべし記して以て當業者に質す

九月十一日 長江舩航中 (曇天暑輕し)

午前十時廿分船蕪湖に寄る止ること三十分にして發す午後三時頃江寧府を右舷に臨む夕刻に至り大雨沛然として至り迅雷四五發江風涼を送り來て連日の苦熱を洗ふ夜に入りて鎮江に着す往航の時も鎮江に夜船し今又夜中となる遂に光景を目撃するの機會を得ず

九月十二日 上海歸着 (晴、又雨暑氣温八十四五度)

午前九時四十分吳淞を通過し十一時上海の埠頭に舩着す西卷氏其他の出迎を受く直に「アストル、ハウス」に入る

此夜西卷氏余が一行を招て日本料理を饗せらるる了て同氏の案内

を以て丹桂茶園と稱する劇場に支那人の演技を看る支那劇の鳴物喧囂にして幕を打たず道具立に變化なし趣味の幼稚なる本邦の劇に比して劣るゝ數等只衣裝の錦繡華美なると仕打の奇にして滑稽を交ゆるの面白し俳優自身に長歌を唄ふ音吐疇走りたる調にして抑揚自在、聲、場内に底徹す舞臺の上に扁額を掲て曰く「極視聽之娛」と支那音を解せざる余輩の所謂聽之娛を極むるゝ能ざるを奈何せん遂に辭して「ホテル」に歸る

九月十三日 上海滞在蘇州夜航 (午前曇午後雨天暑薄し)

朝正金銀行に至り聊か所用を辨じ又三井物産支店に小室氏を訪ひ上海貿易上の近況を質す

午後西卷氏の紹介を以て上海商業會議所會頭「アール、フォール」氏に面會す氏の「ジャードン、マデソン」の支店長あり先づ初對面の挨拶

挨拶を終り問を起して曰く不肖の茶業者なるが上海に於ける茶況如何又當地の紡績事業甚だ盛大なるが如し目下の景況如何に

氏曰く茶の知らると如く支那に於ける第一の富源なり然るに支那人の甚無頓着にして官吏の漫りに收斂を是れ事とし厘金稅輸出稅等を合算するとき一担五六弗の苛稅を徵するの割合なり故に外國競争茶の爲めに販路を蠶食せられ大体近來の振のさるの情況なり

當地紡績業の目下殆んど不振の極に沈み貨物非常に澁滞し各會社の持荷の多きに苦みて夜業を廢するに至れり日本に於ても近年紡績事業勃興したれども賃銀騰貴したる趣なれば原料則ち綿の仕入を安價からしめざれば事業の發達の困難ならん當地に於

ても此傾きなきにあらず  
 余曰く上海貿易の大体に於ける情況の如何又當港則ち黃浦江の  
 改修若くは浚渫するの必要なきか若しありとせば之に對する計  
 畫如何

氏曰く上海の輸出品の生糸第一にして次の茶なり輸入品の重なるもの「マンチエスター」の綿布類及米國の綿是なり而して大体の商況の何れも不振を免れず又黃浦江に淺所あり且多少埋没の恐あるが故に浚渫其他改良の必要を感じ計畫する處なきにあらずと雖も費用支出の方法に苦む依て此費用の支那政府より支出せしめ度考ふるなり元來上海に於ける船舶の入港税の五十万兩の多きに上る然るに其十分の三程の官吏の囊中に收め七分を中央政府に差出す割合なるが如し故に余輩の如此入港税を利用

して江港の改良費に投せしめたく思ふ是なり云々其他二三の  
 事を問ひ辭して「ホテル」に眠る

此日蘇州に夜航するに決し大東輪船洋行(本邦人の設たる上海蘇州間を往復する汽船曳船會社を)に就て一艘の花艇を買切り曳船の列に加へしめ一行之れに乗  
 て午後五時蘇州江(一名申江上海より蘇州に通ずる運河々幅概ね十間内外なり)を發す時に大雨至りて  
 觀望に便ならず市外に出る處に税關の出張所あり出入の船を監  
 視す厘金税徴收の爲めなりと又此邊に外商の住宅多く白楊鬱葱  
 たる林間に洋館の參差たるを看る進むに隨て濁水漸次淡色を呈  
 し來る時一夜暗く細雨霏々たり是に於て西卷氏厚意を以て贈る  
 處の行厨を開き一盞を傾け遂に窓を鎖して船房に假睡す

九月十四日 蘇州遊覽 (晴天甚暑)

黎明江上を眺むれば碧水流れ緩にして清く兩岸の穰々たる水田

かり蘇州に近くに及んで桑を栽培するを見る午前八時蘇州城外に達し吳門橋の傍に上陸す  
直に轎子を命じて城中に入り先づ我領事館を訪ふ駐在代理領事吉岡彦一氏出でて款接す休憩の上二三の近況を聞き府内巡覽の途に上る吉岡氏余が爲めに案内の勞を執らる先づ領事館の隣地にある南禪集雲寺と稱する古刹を看る特に記すべきものなし次に縐子を織る民家に就て其實況を窺ふ無地物の一人織にして紋模様二人掛とす則ち一機臺にありて踏み他の機の上部にありて糸を曳くあり廣東に於ける紋織緞子製出と異なる點なし夫より本市繁華の區と稱する護龍街の西部に出で或る吳服店に入り販賣の物品を二見す時正に十二時かれ近傍の支那料理屋に就て午餐を取る鱸魚の味ひ美ならざるにあらずと雖も客室不潔

器具不整頓にして殺風景あり夫より城外數町を隔たる留園(又劉書す盛宣懷氏の別墅にして有名なるものなり)に至り看る邸内の規模宏壯にして輪奐の美を盡す就中觀劇場の一顧の價值あり庭中に巨大の奇石を置き室内に墨畫の山水又雲龍の如き模様ある大理石を嵌めたる衝立あり扁額あり榻卓あり聞く此等の珍石ハ雲貴地方の山中より出るものにして皆貴重のものありと支那人の石を酷愛するハ奇習と云ふべし「月落烏鳴」の唐詩を以て著名なる楓橋并に寒山寺ハ是より數町の近きにありと往て見るの時間なきを以て止む暇途城西の江岸に出づ則ち轎を下りて艇に上り城壁に沿ふて運河を行く胥門と名く城門の前を過ぐ蓋し伍子胥の故事に因るなり江上支那形警備船の浮ぶもの二三其船体奇にして小舳頭に砲一門を安置す兒戲的の兵船なり婦あり船内を掃除するを看る抱腹すべ

し聞く此軍艦(?)の水上を巡邏して不逞の徒を警むるものにして太湖(蘇州を去る五里の所にある)を横行する水賊は専ら備るものなりと然るに賊猖獗にして出沒自在動もすれば此艦の隊逆撃せらるゝとあり進で賊巢を衝くの勇氣なしと云ふ都を距る僅に五里兇賊の拔扈に委す政令の行へれざるを夫れ此の如く警察力の微弱にして腐敗するを此の如し寧ろ憐むべき哉

夫より吳門橋に至る橋畔幾多の花艇を浮ぶ美婦粉黛を凝らし絹衣を纏ひ纖手を掲て櫓を操る蓋し我待合が嫖客招致手段として艶婦を抱る如き類ならんか艇の概ね長四五間幅十尺内外艇内を粧飾するに紫檀若くは金碧の彫刻を以てす聞く蘇州の風俗は華美を好み江遊を愛す富者の饗應文士の雅宴皆花艇に於てするが故なりと江の規模狭少なれば廣東珠江に於ける花艇の如き偉觀

なしと雖も共に支那に於ける騷客遊冶の籍々として傳る處之れを本邦に比すれば廣東の花艇は大坂の河遊にして蘇州は京都鴨川の舟遊に類するの趣なしとせず

橋の傍に上陸し歩して我居留地に至る日本居留地は城南青陽地と稱する處にあり位置城内の市場に近く前へ則ち四方に達する運河にして又上海に對する交通の要點なり我居留地として他の開港場に比類なき良場所なりとす既に支那人の來集するもの多く商估軒を列るに拘らず却て本邦商人の商業を開くものなきは遺憾なり居留地の道路は廣くして車馬を驅るに適す時に市人來りて輕車を飛し美人盛装して又馬車を馳す絡繹として來往織るが如し聞く夕陽西に春く頃に至れば士女の來遊すること常に此如しと又以て蘇州の人情浮華を好み歐米化したるの一端を知る

に足るべく上海を外にして斯る光景を見ざるなり又蘇州の水清く美人の淵叢にして絹織物の名産地なるのみならず夙に風流華奢を以て著名なる吳王の舊都なり我京都と酷似するを看る

## 蘇州瞥見録

蘇州は上海を去る我二十九里江蘇省に於ける府治のある處人口四十万を超へ五方雜處の區となす四圍平坦の沃野にして水運の便に富む米穀蠶絲の生産市場なり特に繭の良質にして産額又少なからず前途猶發達の勢ひあり昨年に至り器械製絲場起る土人及外商の計營するものにして事業漸く盛況に向へんとす是れ蘇州の生絲事業に先鞭を着けたるものと謂ふべし而して一般の製絲業の各戸在來の坐繰にして本邦に比すれば一

層幼稚なりと余は素より製絲業ニ經驗なし又纔に蘇州の地を一瞥したるのみを以て早計にも此地生絲業の有望を喋々するものにあらずと雖も聞く處によれば將來我日本の器械絲に對し歐米の市場に競争するものゝ蘇州の製絲ならんと果して然らば本邦當業者たるもの宜しく往て其實況を探究し彼我絲質の優劣と生産經濟の如何に鑑み進て蘇州に製絲場を設立するか若くは繭を輸入して其得失を比較するも可ならん是れ豈に馬關條約の結果本邦の開きたる蘇州を利用する所以にあらずして何ぞ若し夫れ外商が既に進て蘇州製絲業に一指を染むるにも拘はず本邦當業者の只袖手傍觀爲すなきか戰捷の光榮によりて得たる我蘇州の新開市場に於ける商權に遂に歐米人の掌握する處となり愈々以て本邦實業者の無能無力を中外に表白するものに非らずして

何ぞ況んや居留地の位置の恐らく支那貿易港中に在て日本居留地として得たるものの中に付て最良の場所なるおや又矧んや蘇州人の事業の製絲なり織物なり猶幼穉の域にあるに於ておや余の切に我當業有力者が蘇州及其附近に於ける事業を研究せんことを促すもの也

九月十五日 上海滞在 (晴天暑氣)

午前九時十分蘇州より上海に暇着す直に「アストル、ハウス」に入る。此夜三井物産支店支配人小室氏の招に依り余の一行同社に到り日本料理の饗を享く西巻、諸井兩氏と卓を共にす款話時の移るを知らず十時頃席を辭し江岸を逍遙して歸館す

九月十六日 同上 (美晴温八十七八度)

午前正金銀行支店員中村氏及支那人某の案内を以て滬北錢業會

館(支那人銀行集會所なり)に到り觀る會館の申江の北にあり構内の前面を武聖宮と稱する堂宇となす則ち關羽廟あり其背後に至れば集會場あり觀劇場あり更に又水神を祀る廟あり全体の規模宏壯にして屋宇皆潔麗なり就中關帝廟を最とす祭壇の如し彫刻を施す金碧燦然たり恰も我寺院に於ける佛壇の如し祭壇の左右に金碧の圓柱あり對句を題して曰く浩氣常存、正大光明、博愛悠久、五洲領福と此館近年の建築に係る銀行者の醜金を以てす巨萬の資を投じたりと構内を一周して門を出づ

因よ一言す支那に於ける會館なるもの同郷若くは同業者團結の機關にして猶西洋人の俱樂部組織に類すと雖ども其利用の範圍の一層廣さが如し會館の會長を戴き幹事を置くの組織なり或は商業取引に關する協議を盡し或は同郷同業者間の制裁を加

へ或の紛議を仲裁し或の艱難相救ひ相防ぐ等事に臨んで同郷又の同業者玆に來集して吉凶共に所辨する場所なるのみならず祭日又の慶事よの盛宴を張り演劇を催す杯親睦娛樂を共にする處をり會館よの必ず聖帝若くの偉人を祀る福建の天后宮安徽の文公祠湖北の禹王廟上海の關帝廟等土地によりて各尊信する所の神靈を鎮坐す故に其祭神の名を以て直に館名とするものあり又郷名を冠するあり獨り自國に於て如此のみならず外國に在留する支那人又到る處必ず會館を設置す我横濱の中華會館神戸の天后宮則ち此類なり

蓋し支那人の國家的觀念に乏しき人民なりと雖ども利己的精神の甚旺盛にして之れを保持するに熱心の極、夙に團結の必要を知るものにして同郷若くは同業者間の團結力の恐るべく感すべき

ものあり而して彼等が如此團結力を確認固守する所以のもの、畢竟政治的制度の不完全にして官吏を倚信するに能はざるが如き其一大原因ならん實に支那人の此團結力を尊重するが故に同業者間の制裁行れて商業の秩序と其公德を維持し外來の勢力は抗して克く福利を増進するものと云ふ可く更に之れを切言すれば支那商人が生存競争場裡に立て宇内の市場を横行し不完全なる制度の下に在て生命財産の安寧を保持する所以のもの、職として此團結の勢力は由る夫れ口に共同一致を主唱し乍ら裏面の同業相欺き相擠するが如きは本邦實業社會の通弊なり余今此會館を觀て其功用を知る豈に感慨なからざるを得んや

午後三井物産支店員青田氏馬車を準備し來りて余が一行の爲めは水道局棧橋其他案内の勞を執らる則ち道を虹口に取り先づ棧



橋の景況を観る

百五十六

虹口の棧橋碼頭と云ふの岸に沿て連る延長十數町怡和輪船洋行招商局等の専用棧橋あり各四五町に亘る江岸深くして如何なる大船巨舶と雖ども自在に横付すべく又棧橋に沿て税關倉庫の設備あり保税倉庫を接續す貨物の出入頗る簡便なり小艇に乗りて江勢を見る對岸の則ち浦東として新船渠あり又倉庫あり虹口の東端に舊船渠あり大艦江の中流に繋り巨舶兩岸に連亘す南方英佛租界の江岸に幾多の浮棧橋倉船等の横るあり長江及近海往復の漁船の概ね其附近に輻湊せり更に北方楊樹浦より遠く吳淞の方を望め紡績の大工場の江岸に沿て櫛比し江上船舶の偉觀と相映す光景雄大眞の東亞第一の互市場支那四億万人口の富を吞吐するの概あり夫より陸上に登り馬車を疾驅して自來水公

司(上海水道局)に到り看る

水道本局の楊樹浦路則ち吳淞に通ずる馬車道に在り千八百八十一年居留外人の發起に係り英京倫敦に於て十二万磅の資金を募り落成したるものとす用水の則ち黃浦江の濁水より先づ蒸流力を以て水を沈泥池に引上げ混濁を沈澱せしめ然る後貯水池に導き夫より瀘水盤に移し此所にて充分に澄清し以て清水倉に注入するの装置なり池を設くること七八箇所又別に三ヶ所の送水井あり蒸氣送水器を運轉し大鐵管を通じて英租界江西路に築造せる高さ貯水樓に推送す其量毎時我二千五百石以上一週間の送水量一千万石に至ると云ふ固より余輩の素人眼を以て其設計の如何を詳にするを能はずと雖ども貯水場構造の模様等ハ我横濱に於けるものと格別異なる點なきが如し只濁水を澄清する爲めに設

百五十七

備したる池數の多きを見るのみ

次に華盛機器紡織總廠を縦覽す本邦に於ても罕に見る處の大工場なり其詳細の景況を質すの暇なかりしに遺憾なり聞く上海に於ける紡績業は彼の馬關條約によりて外人の製造業を此地に設け得るの道を啓さし以來著しく工場増加し怡和(五万鍾)協隆(貳万鍾)老公義(貳万五千鍾)瑞記(四万鍾)茂生(四万鍾)等一時に勃興したる爲め本邦及印度の紡績事業に影響を與ふる處少なからずと云ふ此夜正金銀行支店支配人西卷氏我一行を銀行の樓上に延て鄭重なる日本料理を饗せらる蓋し余が一行明十七日返朝の途に就かんとするに方り送別の意を表せられしなり厚意多謝、小室、桑原(大坂の紳)、諸井の諸氏と卓を共にす歡を盡して返館す

九月十七日 上海出發返朝の途に就く (午前驟雨あり後霽る暑氣)

早起行李を整理し八時「ホテル」を出で、領事館正金銀行三井物産郵船會社等を歴訪して滞在中の厚意を謝し十一時虹口の棧橋に到り兼て乗船と定めたる郵船會社定期船西京丸に乗込む小室、西卷、諸井、桑原、白岩、中村、青田等の諸氏船内に來り送らる則ち客室に延て芳情を謝し一盞を酌で諸氏の健康を祈る

正午十二時船纜を解て棧橋を離るゝや陸上の諸氏帽を舉げ手巾を振ひ別を表せらる、同時に港を出る内外の大船八艘の多きに及び舳艦相銜で吳淞に向ふ其盛況本邦の港灣に於ては未だ曾て見ざる所の偉觀なり快絶又壯絶午後一時十分吳淞を通過し三時楊子江口を出づ海上波平かにして天清し他の船舶は南北に分れて霧雲の中に入る海色黃濁にして夜に至るまで依然たり聞く楊子江の濁流は洋中百里を混濁すと

## 上海瞥見録

上海の江蘇省松江府に屬し蘇州江と黃浦江との交會點に在り四方平坦沃野千里の大陸に連り支那中原の一大脈絡たる揚子江沿岸の咽喉を占め大小の河流縱横舟楫の利極めて便なるに加て支那南北の二大部に對する海上交通の中心點なり

上海の貿易の支那廿五港中に冠絶するのみならず東洋無比の殷盛を極む更に之れを一言すれば上海の支那全國に於ける開港場の貿易を湊合する大市場にして他の開港場の上海を中心となし而して後海外貿易を營むものと云ふも不可なし彼の揚子江沿岸に於ける開港場則ち鎮江、蕪湖、九江、漢口、宜昌、重慶、沙市、勿論近く蘇州、杭州を控へ遠く南方福州、厦門、香港、廣東に及び北方更に

芝罘、天津、牛莊に至るまで悉く上海を以て通商貿易の媒介地となし運輸交通の中心となすを見る、眞に上海の支那四百餘州の生産物を集中して之れを世界萬國に散布し又四億万人衆の需要品を吞收して之れを邈大なる全國に配送するものと稱して可なり

昨年<sub>一</sub>に於ける船舶出入の數は六千六百四十七艘此噸數七百九拾六万九千六百七拾四噸にして貿易金額貳億六千五百六拾七万兩我參億五千三百廿五万圓(一兩を我壹圓卅三錢に換算す)の巨額に上り之れを支那全國の貿易總額に對照するとき上海貿易額の其七割を占め更に之れを我橫神長の三大港に比するとき伯仲の間<sub>二</sub>にあり獨り貿易に於て如此繁榮を示すのみならず又製造工業地として今や長足の進歩を呈せり現に馬關條約の結果最惠國條款により外人の此地に於て器械的製造工業を開くの權利を得し以來彼の紡績

業の如き製絲業の如き俄然勃興して大に我當業者の耳目を聳動したるを以て茲に喋々する迄もなし勿論急激の進歩の一時事業の困難を招くは數の免れざる處紡績事業の如き目下不振の情況なりと雖も余輩を以て之れを見れば畢竟發達時代に横ゆる一時の現象ならんのみ其將來に至りては蓋し猶一層旺盛の域に達すべきか果して然らば本邦當業者たるもの大に警戒する處なからざるべからず

之を要するに上海の通過港としては香港に若かずと雖も商工業地としての遙に香港を凌駕し優に東洋第一の市場たる形勢を有す而して商工業地として殷盛の情況は我大坂の如き觀ありて其規模の一層雄大なり若し夫れ將來大陸を貫通する鐵道の便開け茫漠たる山野に埋没する無盡の富源を開發し漸次内地人民頑迷

の長夢を破りて通商貿易の利を悟るの日に至らんか想ふに上海の繁榮は今日より幾倍するか殆んど測るべからず

是れ固より列國が支那に對する政略上の關係と清國爲政者の方針如何によりて其遲速を決すべき問題なりと雖も蓋し東洋今日の大勢は支那に於ける富源啓發の氣運に一步一步より近寄きつつあることを知らざるべからず而して此氣運に乗じ此時勢に伴て膨脹すべき地の支那廣しと雖も上海を措て又他に求むべからず茲に至りて本邦實業者の益々注目すべきは支那貿易なると同時に上海貿易の將來なりと云はざる可らず

上海の繁盛及將來の多望既に前述の如し然らば則ち此地と一輩帶水を隔てて相對する本邦の實業者は上海に於て果して如何なる事業を營み又如何なる企圖を抱きつつあるか余輩不幸にして

未だ本邦人の上海商工業界に勢力を振ふものあるを見ず勿論三井物産正金銀行郵船會社等ハ本邦人の事業を代表するものなりと雖も純然たる貿易商としてハ三井を除きて他に見るべきものあるを知らず彼の紡績事業の如きに至りても戦後外商の計畫したるものハ成立して盛に事業を營むに拘らず本邦人の計畫したるものハ中途にして倒るゝの不体裁を現したるあり又本邦人の在留するもの殆んど千人を超ると雖も其十中の八九ハ無資無力の徒に非れば一種憎むべき賤業を事とする男女にして本邦實業者を代表すべきものに非ざるなり

翻て之れを歐米人に看よ彼等ハ万里を遠しとせず夙に上海に來りて巧に敏腕を振て貿易に工業に銀行に航海に苟も上海に於ける重要な事業に關與せざるなく而も殆んど其主權を掌握す彼等

ハ治外法權の居留地に傲然として美屋を構へ輕車に駕するに反し我ハ對岸にあり乍ら未だ一の居留地に有せず二三の會社銀行を外にしてハ何れに日本人の住居するかを知る能ハざるが如き情況なり説て爰に至れば余輩本邦實業者たるもの豈に慨以て懐せざる可けんや

猶支那に對して述ぶべきところなきにあらざると雖も所謂皮相の瞥見に過ぎざるを以て敢て贅せず今上海を去りて返朝の途に就くに方り支那輸出貿易品として首位を占め又本邦の競争品として侮るべからざる製茶生絲の輸出表を左に摘録して當業家參考の一端に供す

## 千八百九十七年支那諸港製茶生絲輸出概表

## 茶の部

天津

輸出斤量

百六十六

輸出元價

紅茶 一一、八〇〇、九〇〇<sub>斤</sub>

四、四二七、一七五<sub>兩</sub>

磚茶(紅) 三八、〇〇七、二〇〇

四、一二〇、八六七

磚茶(綠) 二、七六九、一〇〇

三〇四、六〇四

タブレット 二四四、三〇〇

一〇三、八二八

宜昌

紅茶 四〇〇

一〇〇

綠茶 三、六〇〇

九〇〇

沙市

紅茶 二七、八〇〇

五、五六五

漢口

紅茶 四〇、九六七、三〇〇

七、四九五、〇二四

粉茶 三四、六〇〇

一、五二九

九江

磚茶(紅) 二七、一三五、六〇〇

二、一七〇、八四七

磚茶(綠) 二〇、八一〇、九〇〇

一、四五六、七六三

タブレット 三七二、七〇〇

四四、七二〇

紅茶 一一、七四〇、六〇〇

二、二八九、三七七

綠茶 三、八七三、四〇〇

一、四五二、七二二

粉茶 一一、二〇〇

五五八

磚茶(紅) 三、二八三、九〇〇

二九五、五五三

磚茶(綠) 五四、八〇〇

六、五七四

タブレット 二四四、九〇〇

三四、二八二

蕪湖

紅茶 二七、四〇〇

五、八七七

綠茶 二四、五〇〇

四、九〇二

百六十七

上海

百六十八

紅茶

二六、二二六、九〇〇

六、五三一、二六九

綠茶

二〇、四三五、八〇〇

六、一三一、一二八

粉茶

三四九、〇〇〇

一七、四四九

茶葉

(未再製)

一五八、六〇〇

二八、五六一

磚茶

(紅)

三〇、四二五、四〇〇

三、〇四二、五四〇

磚茶

(綠)

二〇、二七八、五〇〇

二、〇二七、八五二

タブレット

六一七、五〇〇

九二、六三七

蘇州

紅茶

二四、七〇〇

六、四二六

綠茶

二四七、二〇〇

七四、一四六

粉茶

七、六〇〇

三八二

寧波

綠茶

(ヒチロウ産)

一、二四六、八〇〇

二五二、八五〇

綠茶

(ヒンセイ産)

六、一五七、九〇〇

一、一二〇、七三四

粉茶

二五、〇〇〇

一、〇〇〇

茶葉

一三五、二〇〇

一一、三五六

抗州

紅茶

二〇、〇〇〇

一二、〇二四

綠茶

七、一一三、一〇〇

四、二六七、八六九

粉茶

三四四、〇〇〇

一七、二二三

茶葉

五七、六〇〇

三四、五七三

温州

紅茶

二五一、一〇〇

四七、五八五

綠茶

四七〇、〇〇〇

八一、六四八

茶葉

(未再製)

六〇九、八〇〇

四二、二七四

百六十九

福州

紅茶 二五、八八四、八〇〇

紅茶 四、九三五、九〇〇

綠茶 四三、八〇〇

綠茶 四、八七九

粉茶 四三五、三〇〇

粉茶 一九、八〇三

茶葉 三六六、九〇〇

茶葉 七七、八三三

種茶 (紅) 五、七六六、三〇〇

種茶 (紅) 三七一、五三六

種茶 五五二、六〇〇

種茶 一、七九六

廈門

紅茶 一、二一六、四〇〇

紅茶 一四六、一八五

骨茶 一三、〇〇〇

骨茶 五五〇

汕頭

紅茶 六二二、一〇〇

紅茶 一一八、八五一

綠茶 五八、六〇〇

綠茶 八、九一四

百七十

廣東

紅茶 一、三四九、九〇〇

紅茶 二三四、六九四

綠茶 二〇〇

綠茶 四七

九龍

紅茶 五、七九〇、〇〇〇

紅茶 一、〇四二、一九九

紅茶 三八九、〇〇〇

紅茶 二二三、三三七

綠茶 一九七、六〇〇

綠茶 三九、五一四

骨茶 一一六、二〇〇

骨茶 三、二五五

種茶 五〇六、〇〇〇

種茶 五、〇六〇

ラッパ

紅茶 (再製) 二、三一七、七〇〇

紅茶 (再製) 四一七、一八八

紅茶 (未再製) 二四〇、〇〇〇

紅茶 (未再製) 二六、四〇〇

綠茶 (再製) 三、三〇〇

綠茶 (再製) 六五七

百七十一



綠茶	(未再製)	一、三〇〇	一五八
粉茶		三四、九〇〇	六九九
骨茶		一六、〇〇〇	四四七
種茶		三九八、八〇〇	三、九八七
紅茶	北海	七〇〇	六八
紅茶	ランチョウ	二、二〇〇	二四一
綠茶		七、〇〇〇	六四四
紅茶	蒙自	八九、八〇〇	一〇、八七〇
紅茶	セマヲ	六〇〇	五三

百七十二

生絲ノ部

野蠶生糸	牛莊	九二九、一〇〇 <sub>斤</sub>	一、三七四、四〇〇 <sub>円</sub>
白色生糸	天津	四、〇〇〇	八、〇〇〇
白色生糸	芝罘	五、五〇〇	九、八四六
白色生糸	(野蠶)	九、七〇〇	二八、六七〇
黄色生糸	(野蠶)	二〇一、二〇〇	五六四、一〇八
座繰		四五七、七〇〇	一、〇九〇、三三〇
機械		四九、六〇〇	一一六、八九〇
重慶			
合計		三三三、九五六、八〇〇 <sub>斤</sub>	五五、二五二、四九五 <sub>円</sub>

百七十三

白色生糸  
黄色生糸  
野蠶生糸

一二、八〇〇  
四五六、六〇〇  
九三、一〇〇〇

二九、二三九  
九八〇、六六九  
七七、〇八八

生糸

三〇〇

七二三

白色生糸

六、八〇〇

一六、三二〇

黄色生糸

四八七、四〇〇

一、〇七二、二八〇

野蠶生糸

一〇二、五〇〇

八七、一二五

沙市

白色生糸

六〇〇

一、五一九

黄色生糸

四三、〇〇〇

九七、八八一

漢口

白色生糸  
黄色生糸  
野蠶生糸

三三二、一〇〇  
八六八、九〇〇  
一〇一、五〇〇

七八、九六五  
一、九九八、九四七  
九二、八五六

蕪湖

白色生糸  
黄色生糸

一三三二、九〇〇  
一、二〇〇

二四八、二七九  
一、九五〇

鎮江

白色生糸  
黄色生糸

一八、九〇〇  
四〇〇

五〇、〇八五  
一、〇二〇

上海

白色生糸  
黄色生糸  
野蠶生糸

三、〇九〇、一〇〇  
八四九、九〇〇  
一、二一六、六〇〇

九、八九九、八三六  
一、九八一、〇六八  
二、四三三、一六八  
百七十五

再燃生糸

一、三九七、五〇〇

六、三三四、五三二

生糸

(蘇州紡績所)

九、一〇〇

五六、四二〇

生糸

(上海紡績所)

一、二四二、九〇〇

七、四二八、七〇一

蘇州

白色生糸

一二、四〇〇

四三、三八六

生糸

(蘇州紡績所)

二三、一〇〇

一五〇、〇七二

抗州

生糸

一三三、七〇〇

七二九、九六〇

ウチヨウ

白色生糸

一六、六〇〇

三三、二八〇

サムシユイ

白色生糸

二〇〇

六六〇

廣東

白色生糸

七二、五〇〇

二四五、二五一

白色生糸

(紡績)

三、三〇〇

一四、五八九

黄色生糸

一、二〇〇

三、二一九

野蠶生糸

五二、〇〇〇

四六、一三五

機械

二、九九六、五〇〇

一一、三三三、二五七

九龍

白色生糸

二八九、五〇〇

一、〇二三、〇八五

野蠶生糸

二六九、二〇〇

二四七、六三六

ラッパ

白色生糸

三三二、九〇〇

一一五、〇六三

野蠶生糸

三五九、九〇〇

三三二、一三三

ウンチヨウ

野蠶生糸

九、九〇〇

九、九〇八

北海

三、一〇〇

九、二八八

野蠶生糸

九〇〇

五、一五

白色生糸

一〇〇

三三〇

黄色生糸

一、八〇〇

四、三九〇

合計

一五、九九九、七〇〇

五〇、三八二、〇五二

屑物ノ部

牛莊

一七九、六〇〇

五三、八六八

天津

二〇、七〇〇

二、五九三

芝罘

一、八〇〇

一、二〇〇

屑物	屑物	屑物	屑物	屑物	屑物	屑物	屑物	屑物	屑物	屑物
重慶	宜昌	漢口	蕪湖	鎮江	上海	重慶	宜昌	漢口	蕪湖	鎮江

七五三、九〇〇

一九九、二六〇

五七、九〇〇

一四、六〇一

五〇、七〇〇

一二、六七五

六五一、九〇〇

一七九、一七〇

九六、二〇〇

四〇、九〇一

六八、五〇〇

二七、九四八

三、三九〇、一〇〇

一、五二一、二四一

層	蘇州物	二、〇〇〇	一、四〇〇
層	杭州物	三〇、二〇〇	九、〇五七
層	温州物	二〇〇	一一八
層	廣東物	一、四八三、三〇〇	七七八、七九六
層	九龍物	四九五、一〇〇	二八七、一五五
層	ラッパ物	七八、〇〇〇	四五、二四二
層	合計	七、三五八、三〇〇	三、一六三、九二五

九月十八日 航海中 (晴天海上平穩)

天氣晴朗にして風なしと雖も船体の動搖を感ず蓋し支那海の潮流急激なるが故ならんか

九月十九日 長崎着 (晴天甚暑)

拂曉長崎港口に着す船止ると暫時檢疫を受けるが爲めなり五時半頃港内に進んで投錨す則ち上陸して迎陽亭に入る朝食の後亭を出で小松原知事松田源五郎松尾己代治の諸氏を訪ふ松尾松田の兩氏不在なり刺を通じて販る

午後松田松尾島津溝田城後等の諸氏來訪せらる此夜諸氏の發起を以て本市朝野の紳士余が爲めに歓迎の宴を迎陽亭に催せらる深く諸氏の好意を謝す

九月廿日 陸路長崎出發 (晴天暑)

午前七時發九州鐵道に搭じ長崎を發す田中本縣書記官松尾等の諸氏停車場に來り送らる

長與に至り下車し大村灣を渡船し大村停車場に到りて乘繼ぐ此間の乗降り不便なりと云ふべし佐賀博多等を経て夜九時三十分門司に到着す直に山陽鐵道連絡船に乘移り海峽を航し午前四時周防の徳山に上陸す

九月廿一日 神戸着 (晴天暑氣)

午前五時二十分徳山發急行列車に搭じて午後四時四十分神戸に着す山本池田永田西口駒田其他の諸氏停車場に迎へらる直に西常磐に投す  
午後神戸商業會議所書記長木村氏來訪し余に告て曰く山本會頭の發起を以て明廿二日本市紳商の催に係る貴下の歡迎會を開く

幸に滞在の上臨席あらんことを希望すと余返途を急がざるにあらずと雖も深く其厚意を謝して參會を約す  
此夜舊友池田氏歡迎の宴を張り余の一行を饗せらる

九月廿二日 神戸滞在 (晴天)

朝山本武田池田其他諸氏來訪す正午余が「一行「ミス・ボーカー」商會支配人テラー氏の邸に赴き晝餐の饗を享く池田氏と車を共にす

夫より正金銀行支店に至り鍋倉支配人に面會し清國漫遊中上海香港の支店に於て厚遇を忝ふし便宜を得たることを謝し又郵船會社に至りハッ井支配人を訪ふ不在なり依て來意を通じて販る  
此夜商業會議所議員茶業家等の招待に依り余の一行兵庫常磐花壇に到り饗を受く席上余の旅行中見聞の大要を叙て謝辭に代へ

歡を盡して販る

九月廿三日 名古屋一泊 (曇天)

午前八時四十分三ノ宮停車場發販東の途に上る山本池田駒田永田西口其他數十氏來り送らる神戸に於てハ往途諸氏を煩ハし販途又歡待を受く深く諸氏の厚情を謝す

大坂停車場に於て廣瀨宰平松本重太郎村山龍平の三氏と車室を同ふす松本村山兩氏ハ程なく下車し廣瀨氏ハ岐阜に去る氏古稀に近き齡を以て快談猶壯者に譲らず午後四時五十分名古屋に着し秋琴樓に投ず

九月廿四日 販着 (晴天)

午前六時二十五分名古屋發車に搭じて横濱に向ふ島田沼津等の茶業家諸氏停車場に出で、歡迎せらる又諸會社員親戚等國府津

に出迎ふ則ち相擁して午後六時二十分横濱に販着す紳士知友其他諸氏の出迎を忝ふすること出發の時と異ならず則ち諸氏の厚情を謝し茲に無事臺灣及清國の漫遊を終て自邸に入る

明治三十一年十二月二十三日印刷  
明治三十一年十二月二十七日發行

(非賣品)

著述人

大谷嘉兵衛

横浜市元濱町二丁目十五番地

印刷人

和仁幸之進

神奈川県久良岐郡戸太町戸部  
六百九十七番地

印刷所

東京印刷株式會社  
横濱分社

横浜市太田町六丁目九十四番地



緒言

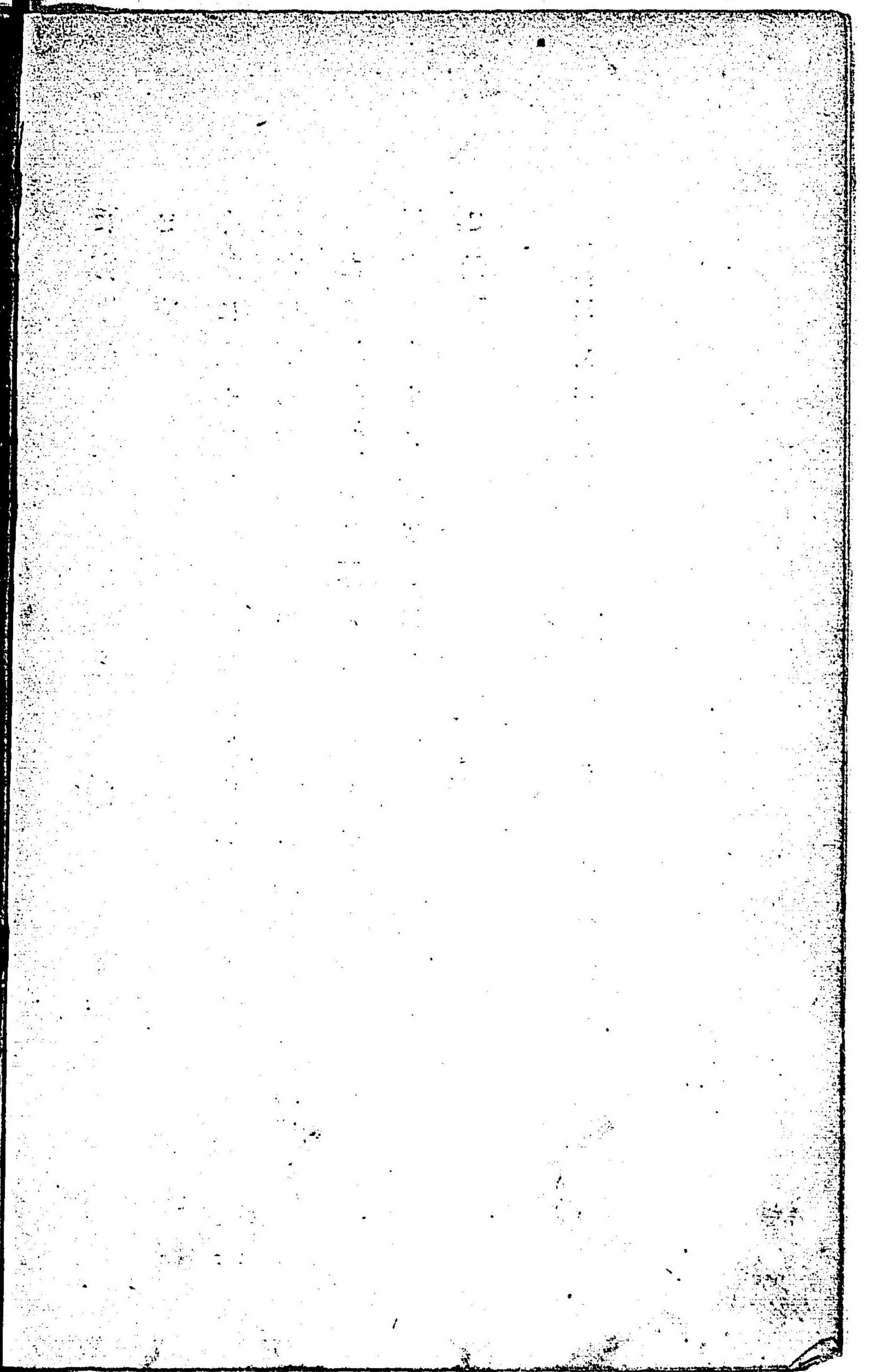
余將に臺灣及清國巡遊の途に上らんとするや時恰も盛暑に際す知友交々余に對し忠告して曰く君が新領土及隣邦に遊ぶ其舉邦家の爲めに賀すべし唯炎熱の候に方りて南方瘴癘の異域に向ふ時未だ宜しきを得たりと云ふ可らず請ふ秋冷を待て發せよと余謝して曰く諸君の厚情深く想ひざるにあらず然れども余は是れ製茶貿易を以て本業とす茶業者の不幸にして世人が暑を避て清涼の地に遊ぶ時を以て最も勤勞すべき季節となす臺灣に於ける茶業の實況を視察せんと欲せば宜しく夏期を

二  
撰らざるべからず況んや暑中の余が公務は於て幾分か  
閑を得る時なるや此期を利用して海外漫遊を企つ是  
れ豈に余の本意として寧ろ時の宜しきを得たるもの  
あらずやと  
則ち七月三十一日を以て横濱を發し先づ臺灣に渡行し  
更に南の方香港廣東に遊び轉じて支那中央殷富の地  
たる揚子江沿岸を歴遊して九月二十四日歸朝す其間僅々  
五十有餘日所謂南船北馬只觀光を専らとす固より調査  
の結果として特に記すべきものなし殊に輓近本邦人士  
の臺灣及清國に遊ぶもの尠なからず各専門的視察ある

に方り漫然皮相の觀察を下す却て世人を謬るの恐なし  
とせず  
今茲に余が後日の記憶に備る處の紀行を上梓して之を  
知友に頒つ所以のものに要するに此行に就て配慮せら  
れたる辱知諸君の厚意に酬ゆるに過ぎずと雖も亦一片  
微志の存する點なきにあらず幸に一讀の勞を吝む勿れ  
と云爾

明治三十一年十二月

南湖 大谷嘉兵衛識



79  
255